週刊 YEAR BOOK

1955
昭和30年

# 日録20世紀

12|9
平成9年12月9日発行
(毎週1回発行)第1巻第40号
¥560
講談社

## 家電"三種の神器"時代!

凶悪犯罪続出! 「国を滅ぼす」ヒロポン大流行
民間労組70万人が参加、「春闘」が始まった
わずか主演3作でジェームズ・ディーン事故死!

# 主婦があこがれた“三種の神器”——洗濯機、白黒テレビ、電気冷蔵庫
# 空前の「家電時代」がやって来た！

▲昭和30年末に登場した電気釜は、翌31年以降、先行する“三種の神器”を追い越すめざましい普及ぶりを示した。　影山光洋

採用面談で「お宅には洗濯機がありますか？」と尋ねるお手伝いさんが急増した、という噂がまことしやかに流れたのが昭和三〇年だった。生活様式が欧米スタイルへと変わり、家電“三種の神器”は、日本人にとって憧れの生活を実現する不可欠な小道具になっていたのである。

## 「神武景気」の大波に乗り電気洗濯機が急速に普及

それは、新しい家庭電化時代の幕開けを象徴するようなシーンだった。

「ラジオはもはや、電源コードつきの時代ではありません。ご家庭のラジオもすべてTRにするべきです。皆様のお好みの場所に、TRはおともできます」

昭和三〇年八月七日、東京通信工業（現・ソニー）が発売した日本で初のトランジスタラジオ「TR-55」の噂を聞きつけたサラリーマンたちが、都内の電気店で食い入るように新型ラジオの宣伝文句に聞き入っていた。

「一万八九〇〇円か、結構高いなあ」

時折、溜息まじりのこんな声も聞こえてくる。この年、勤労者世帯の月収平均は、二万六二六二円だった。

松下電器産業歴史館蔵／松下電器産業提供

▶**電気冷蔵庫（松下電器）**
昭和28年発売、容量3.5立方フィート、定価12万9000円。サーモスタット（自動温度調節器）で運転・休止し、庫内温度5度で終日使用した場合の電気料金は9円。40ワットの電球をつけているのと同じだった。

◀**電気洗濯機（三洋電機）**
昭和28年発売、定価2万8500円。破格の安さで売り出された、国産第1号の角型噴流式洗濯機。電気洗濯機のヒットをきっかけにして家電ブームが始まり、主婦は「たらいと洗濯板」から解放された。

◢**テレビ（東芝）**昭和28年発売、17インチ、定価19万円。29年には9ないし7インチの小型で、30年には14インチで10万円を切るテレビも登場。33年には6万円台、そして昭和34年4月の皇太子ご成婚を機に、一気に普及する。

▶**トランジスタラジオTR-55（東京通信工業＝現・ソニー）**　昭和三〇年発売、定価一万八九〇〇円。東通工は日本初のポケット型ラジオを発売し、ブランド名を「SONY」に。

ソニー提供

東芝科学館蔵　東芝提供

◎表紙　ジェームズ・ディーンは、スクリーン・デビューしたこの年、交通事故で死亡し、ハリウッドの伝説的存在に。　デニス・ストック　マグナム フォト

〝小型のお仏壇〟と言われた真空管式ラジオがまだ多かった当時、コンパクトで軽量、単三電池を四本使用すればどこでも使えるラジオが庶民の熱い視線を集めたのも、当然である。昭和三二年には月産約六万二〇〇〇台のヒット商品となるこの新型ラジオは、やがて来る国産家庭電化製品の大供給・大消費時代に先駆ける商品でもあった。

昭和二〇年代後半の家庭電化といえば、扇風機やトースター、アイロン、ラジオが中心。それが、三〇年には「神武景気」の波に乗り、電気洗濯機が急速に普及し始める。さらに、登場した家電製品の月賦販売が庶民の購買意欲を刺激して、三二、三三年頃の空前の家電ブームへとつながっていく。中でも人気は洗濯機、白黒テレビ、冷蔵庫に集まった。この三製品は〝三種の神器〟と呼ばれ、「日本間・畳」という日本的な居住様式から、「リビングルーム・絨毯」などの欧米風の生活様式へと変わってゆく象徴でもあった。

購入するのは、どの家庭でも「洗濯機→白黒テレビ→冷蔵庫」の順。主婦にとって、体力的にも時間的にも最も負担が大きいのは洗濯だったからである。

## テレビのCMが刺激する主婦憧れのモダンライフ

「うちの女房は一〇年も前から洗濯機を使ってますので、洗濯の苦労を知らんと言うてます」――大阪の取引先社長にそう言われたのを機に、昭和二八年に角型噴流式洗濯機の国産第一号を開発したのは、三洋電機を創業した井植歳男だった。

井植は主婦がたらいで洗うエネルギー、肩のコリを賃金に換算し、「家族五人分の洗濯だと一回二八〇円もかかる。それが洗濯機なら二五円ですむ。家庭経済はうるおい、奥さん方も快適になる」（自著『ゼロから出発する』）と、同年の八月二六日に、二万八五〇〇円の洗濯機を売り出した。従来の国産品が五万～六万円もした時代には、破格の安さだった。

「先発メーカーが、米国風の攪拌式（水槽の底にある攪拌翼がもみ洗いする）を採用していた中で、井植は現在の主流になっている英国風の角型噴流式（水流で洗えて生地が傷まない）を開発しました。内外の洗濯機を社長室に並べ、毎日洗濯物を抱えて来ては、部屋中を水びたしにして研究をしたそうです。その甲斐あって、発売後の反響は大きかった。地方の販売店がお得意さま相手の工場見学を催し、連日一〇台近いバスが工場に乗りつけたという伝説が残っているぐらいですから」（三洋電機ランドリー事業部）

▲テレビのある家には近所の人が集まった。この時代、家庭電化器具が豊かさのステータス・シンボルとして脚光をあびる。 中俣正義



主婦があこがれた〝三種の神器〟
――洗濯機、白黒テレビ、電気冷蔵庫

# 空前の「家電時代」がやって来た！

◀東通工の成功は、同業各社を刺激し、以後ポータブルラジオが次々発売された。

朝日新聞社

〝洗濯機って中がカラなのに、なぜ洗えるの？〟と主婦が素朴な疑問を抱えていた時代である。重労働から解放された女性の反響は大きく、「ガタガタ廻っている洗濯機に感動して、手を合わせて拝みたくなった」という投書も新聞に寄せられた。二九年四月にはあっという間に月産一万台を達成。三〇年には業界全体でも、年産四五万台を越えた。洗濯機は、主婦の家庭での自由度と発言力を高める〝カカア電化〟と皮肉られもしたのである。

冷蔵庫も三二年には、松下電器産業のドアポケットつき冷蔵庫（六万～一五万円）などが登場していたが、値段の高さなどで一般家庭では三〇年代前半まで〝木製の氷冷蔵庫〟時代が続いた。

対照的に、白黒テレビが急ピッチで浸透したのは、生活のゆとりは取り戻したものの、日本人の多くが依然として娯楽に飢えていたからだった。NHKが本放送を開始した二八年の受信契約数はわずか八六六件。〝一インチ一万円〟の価格（一四インチの標準価格が一四万二〇〇〇円）がわざわいして、二九年でも一万件を越える程度だった。それが、量産化が進んで三〇年に一二万四〇〇〇円に、三三年に六万円台に突入すると、爆発的なテレビブームが起きる。普及率が五〇パーセントを越え、テレビが、〝家電ナンバーワン〟の座に昇りつめたのは三五年。巷では、主婦の間で昼に放映されるクッキングやアートフラワー、マナーなどの教養番組が人気を集めていた。

さらに言えば、テレビそのものが家電ブームの牽引車にもなったのである。アメリカのテレビドラマに登場する豪華なダイニングキッチンや、電化製品のテレビCMで有名女優がささやく便利さに、女性たちは〝理想の生活〟を思い描き、購買意欲を刺激されたからである。憧れのモダンライフを実現するのに不可欠な小道具が、〝三種の神器〟だった。

三三年には自動電気炊飯器が月産一〇万台の大ブームを呼び、掃除機やステレオなども登場。この後も〝三種の神器〟は次々といれ代わり、昭和四〇年代に入るとクーラー、カラーテレビ、カーからなる〝3Cブーム〟が到来する。

▲まだ消費者は電気冷蔵庫に対して「冷却箱」程度の認識しかなく、秋になると電源を切ってしまう家庭もあった。 毎日新聞社

### 家電ブームを支えた女優たち

三洋電機は、モダンライフを象徴する女優として、家庭的な雰囲気の木暮実千代を起用。木暮は〝サンヨー夫人〟という愛称でラジオ、テレビ、ポスターなど幅広く登場した。

東芝の電気釜の宣伝に起用されたのは日活の女優・高友子である。電気釜の蓋を開けて、炊き上がったごはんに彼女がビックリするシーンは新聞広告でもおなじみだった。同じ東芝で、ベテラン女優の山田五十鈴が起用されたのは洗濯機のCM。山田は雑誌のインタビューなどで家事から解放される主婦の気持ちを代弁するなど、PRに大きな役割をはたす。

さらに、松下電器の専属宣伝タレント〝ミセス・ナショナル〟としてブランドイメージを担ったのは高峰秀子。ラジオからテレビ、ポスターにいたる幅広い媒体に登場し、文字どおり同社の〝看板〟となった。

このほか、富士電機の洗濯機CMには、傘をさした南田洋子が登場。宣伝文句は「雨の日にもお洗濯には困りません」だった。

◀この年三月、松山善三と結婚した高峰秀子は、〝ミセス・ナショナル〟として電化生活にあこがれる主婦層に強くアピールした。

松下電器産業提供

# 常用者五五万人、精神障害者二〇万人
## “鏡子ちゃん”事件など凶悪犯罪も続出
# 「国を滅ぼす」ヒロポン大流行！

◀▶大阪市で、ヒロポン中毒者・池田正義が、魚釣りをしていた工員を運河に突き落とし、遊んでいた3人の子どもと子守の女性も投げこむ事件が起こった。右は痛ましい犠牲者となった子どもの一人。左は池田によって2度投げこまれて救助された、子守の喜多さん。

▼昭和29年12月、ヒロポン製造工場を警察が摘発。29年は、検挙者数がピークに達した。30年初頭には入手難から各地で中毒者が禁断症状を起こし、路上の行き倒れが相次いだ。

朝日新聞社

朝日新聞社

毎日新聞社

敗戦後約一〇年にわたり、ヒロポン禍が猛威をふるった。「亡国への魔手」とまで言われたヒロポンは若者たちの心身をむしばみ、精神障害や凶悪犯罪を引き起こしたが、昭和二九、三〇年の取締り強化、日本経済の復興により下火となった。しかし覚醒剤はその後も姿をかえて流行、現在もその魔性をむき出しにしている。

## ヒロポン中毒者による傷害、殺人事件が発生

昭和三〇年が明けてまもなくの一月一九日朝八時半、かねてから内偵が進んでいた東京・足立区内で一斉手入れが始まった。警察がジャングルの迷路のようなヒロポン密造地帯を急襲したのだ。

標的は足立区内にある梅田町、高野町など五町内の四六ヵ所。西新井署に前線本部をおき、制・私服警察官三百数十名が出動したしらみつぶしの捜査だった。検挙されたのは女四人に男二人の計六人、ヒロポンの原料粉末やアンプルなど多数が押収され、その後も摘発が相次いだ。

ヒロポンの取締りは、前年から徐々に強化されていた。二九年一一月、ヒロポン退治を目的に設けられた「覚醒剤（かくせい）取締本部」は、三〇年三月八日には、それまで取締りと保護をおもな任務としていたものから、検挙・摘発一本にしぼるという組織に改められた。

そもそも「ヒロポン」とはメタンフェタミンを成分とする覚醒剤で、戦前、特攻隊員や動員学徒が飲用していた政府公認の「はりきり薬」でもあった。

この年、取締り当局が、ヒロポン撲滅に向けて強硬姿勢をとる背景には、ヒロポン常用者による数々の凶悪犯罪があった。昭和二八年から翌二九年四月にかけて、練馬の洋裁学校生徒殺し、四谷の娘殺し、荏原（えばら）の連続女性傷害事件などが起き、痴漢による被害も続出した。

そして二九年四月、文京区の元町小学校のトイレで細田鏡子ちゃん（当時・七歳）が暴行・殺害され、六月二五日には、白昼、大阪市福島区の中津運河に、行きずりの五人の人々が投げこまれ、三人の幼児が溺死するなどの恐るべき殺人事件が発生した。いずれも、ヒロポン中毒による精神障害者の犯行であった。

国民は大きなショックを受け、官民あげての撲滅運動を展開、製造現場の取締りは一段と強化された。その一方、ヒロ

◀昭和33年、神戸の麻薬地帯で警察がアジトを急襲。常習者は腕に残る注射の痕を隠しようもなく、気弱にうずくまり顔もあげない。

朝日新聞社

ポンの密造は地下にもぐり、ブローカーの取り引きも巧妙になって、捜査がいき詰まるという現実もあった。しかもブローカーが摘発を逃れて安全な場所へ転々と移動したため、ヒロポン禍は、急速に都会から農村へと波及していった。

## 検挙者数もうなぎのぼり 文壇・芸能界にも常用者が

「ヒロポンはまさに〝戦後の落とし子〟と言っていいでしょう。敗戦による心の傷は大きく、生活の目標や人生への希望を失う中、若者たちは明るく流れていた『リンゴの唄』のように、気分を高揚させるヒロポンに手を出したのです。そのピークは昭和二九年でした。しかし取締りが強化され、日本経済に活気が戻り始めると、急速に鎮静化し、かわりに新しい覚醒剤が登場してきました」

こう語るのは、元国立精神・神経センター薬物依存研究部長で、現在千葉県安房郡の三芳病院院長の福井進氏である。

ヒロポンは昭和一六年、製薬会社が「仕事の能率を高める薬」として発売した覚醒剤の商品名で、戦時中は夜間作戦の眠気防止や死の恐怖を取りのぞくため、日本やドイツの軍隊で使用されていた。

そして戦後、大量の在庫をかかえる製薬会社は、街の薬局で大々的に販売する。ヒロポンを使用すると中枢神経が刺激され、一時的に気分が高揚し、疲労感がとれたような錯覚におちいり、一度その快感を味わうと虜になってしまう。こうしてヒロポンの大流行が始まった。

坂口安吾、田中英光といった作家たちがヒロポンを打ちながら原稿を書いていたことは有名だが、芸能界には文壇以上にヒロポン禍がはびこっていた。声帯模写の草分けである桜井長一郎氏（現・七九歳）は、「漫談家の先代柳家三亀松やダイナブラザースのリーダー川田晴久などは、楽屋で公然とヒロポンを打っていたという噂をよく耳にしました」と語る。

また漫才の「かしまし娘」の正司歌江は、みずからのヒロポン体験を「悪魔の魅力に取り憑かれ、まるで無間地獄に落ちた亡者のような生活の日々を繰り返していました」と自著で書き綴っている。

一般の常用者の中では、一〇〜二〇代前半の若者が大半を占めていた。ピークの昭和二九年には、ヒロポン使用中のものが年間五五万人、ヒロポン禍による精神障害者が二〇万人、これまで使用したことのあるものが二〇〇万人と、まさに「ヒロポンが国を滅ぼす」という様相を呈していた。また二六年六月三〇日に覚醒剤取締法が公布されて以来、検挙者は、昭和二六年が一万七五二八人、二七年は一万八五二一人、二八年は三万八五一四人、二九年には五万五六六四人という空前の記録を残している。

ヒロポンは安く、しかも簡単に入手できた。原価は二ccでアンプルとともに一本一円三、四十銭、ブローカーには五円ほどで流れ、末端では一〇〜二〇円でさばかれていた。当時、映画館の入場料が一〇〇円、公務員の初任給が八七〇〇円。効果のわりには安い買い物であったが、取締り強化によってこの大流行にも転機が訪れたのであった。

検挙者は、昭和三〇年には三万二一四〇人、三一年が五〇四七人、そして三二年には七八一人と、ヒロポン禍の嵐は急速に終息していった。しかし、覚醒剤そのものは姿を変えながら今も魔の手をのばし、平成七年には検挙者数が一万七三六四人と、またまた流行へのきざしを見せ始めている。



女たちの肖像

# カラフルで、奇抜なデザイン 〝浪花の怪女〟鴨居羊子の「自由な下着は女性を自由に」

稲葉真弓

▲著書に『下着ぶんか論』『カモイクッキング』などがある。

〝大阪のポアン女〟（ジャーナリストの花森安治が命名、何を考えているのかわからない意）鴨居羊子（三〇）が、ナイロン製で黒やスケスケの〝七色の下着〟の製造販売を始めたのがこの年の一〇月。一二月には大阪・そごう百貨店で〝女性アンダーウエア展〟を開き、カラフルな色、奇抜なデザインの下着を発表。それまで〝下着は白かメリヤス色〟といった固定観念にとらわれていた人々のど肝を抜いた。

当時大阪ではヌード喫茶の取締りが厳しく、ショーを見た喫茶店主らが「裸がダメでもこの下着があればイケる」として大量注文したことから、まもなく市内に一坪の事務所を借り、下着メーカー「チュニック制作室」を設立。股の部分が割れたものや、フリルつきパンティなどを次々に世に放ち、「スキャンダルが起これぱいい」とこれらの下着をみずから〝スキャンティ〟と名づけてマスコミの話題になった。

鴨居羊子がめざしたのは、たんにスキャンダラスで話題性のある下着作りではなかった。彼女は「白の下着はたんなる因習にすぎない、自由な下着は女を自由にする」と、下着による女性解放のコンセプトを打ち出したのだった。また、映画「女は下着でつくられる」も制作、〝隠す下着から見せる下着〟の登場は、新鮮でスリリングな衣服体験として受け入れられていった。

大正一四年大阪に生まれた彼女は、父親が新聞記者だったことから、金沢、朝鮮の京城（現・ソウル）で育った。戦後、引揚げてきて大阪府立女専（現・大阪女子大）を卒業。「新関西新聞」の記者を経て、「大阪読売新聞」の記者になった。この頃から「何かを創造したい」という欲求に憑かれ、昭和三〇年退社。直後、下着作りを始めるが、本人はミシンが踏めない。洋裁の得意な友人にミシンを踏ませ、その間にショー形式の個展をそごうに売りこみ、二ヵ月後には〝下着革命〟の旗手となっていた。

画家の鴨居玲（故人）は弟だが、羊子も文章や絵画が得意だった。加えて無類の動物好き。四二年、日動画廊を皮切りに何度か絵画の個展を開いたほか、愛犬や野良猫を描いたエッセイを出版。フラメンコにも熱中した。自由と孤独を愛し、〝浪花の怪女〟と言われた彼女が脳内出血で他界したのは平成三年三月。最後まで独身だった。

勝者・敗者

# 水泳史上で唯一無二！ 世界記録を一秒半縮めた 古川勝の「潜水泳法」

阿部珠樹

読売新聞社

▶古川は、同じ和歌山出身の前畑秀子を目標に練習を重ねた。

名選手は、記録とともに、誰にもまねのできない技によっても人々の記憶に残る。王貞治の「一本足打法」しかり、イチローの「振り子打法」しかり。水泳の世界で今も語り伝えられる個性的なスタイルと言えば、昭和二〇年代後半から三〇年代にかけて活躍した平泳ぎ・古川勝の「潜水泳法」をあげなければならない。

スタートから長く水に潜る泳法は、後に背泳ぎの鈴木大地やバタフライの青山綾里も自分のものにして大活躍したが、古川の潜水泳法は、その先達と言えるものだった。なにしろスタートから四〇メートルも潜るのだからすごい。しかし、この泳法は一〇〇メートルではよいが、スタミナのいる二〇〇メートルでは後半がきつい。そこで古川は二〇〇メートルでは、三、四メートルほどの潜水を小刻みに繰り出す作戦をとった。スタートして、まず四〇メートル潜る。以後のレースは、腕を大きくひとかきし、前に伸ばした腕を、股の脇まで持ってくる。この間、体は頭まで水に潜ったままにする。そして次のひとかきで頭を上げる。つまり、ずっと潜りっぱなしで進むのではなく、三メートルから四メートルほど水中を進んでは頭を出し、また潜って三、四メートルも進むというもので、ペースが自在に変えられるのが強味だった。

当時は、ほかの日本選手も、古川と似た泳法を試みたが、古川ほどたくみに潜り、力強く進める選手はいなかった。

その潜水泳法の威力を、最初に世界に示したのが、この年の八月、東京で開かれた日米対抗水上競技大会だった。八月五日の二〇〇メートル平泳ぎに出場した古川（一九）は、五〇メートルでトップに立ち、一〇〇の折り返しでは後続を四メートルも引き離して水を開ける。後半の一〇〇も後続との差は詰まらない。最後は、まるで見得を切るようにひとかきで四メートルを潜り切り、そのままゴールした。記録は世界記録を一秒半縮める二分三三秒七の新記録だった。この大会で自信をつけた古川は、翌年のメルボルン五輪でも、潜水泳法を駆使して金メダルを獲得した。

# ニュース・ファイル 1955

## フォト＋日録で再現する365日

この年、社会党が統一、民主党と自由党が合同して自由民主党を結成し、二大政党対立の「五五年体制」が成立した。こうした中、造船景気と大豊作を背景に経済は着実に成長、洗濯機・テレビ・冷蔵庫の「三種の神器」がまぶしくうつるようになった。

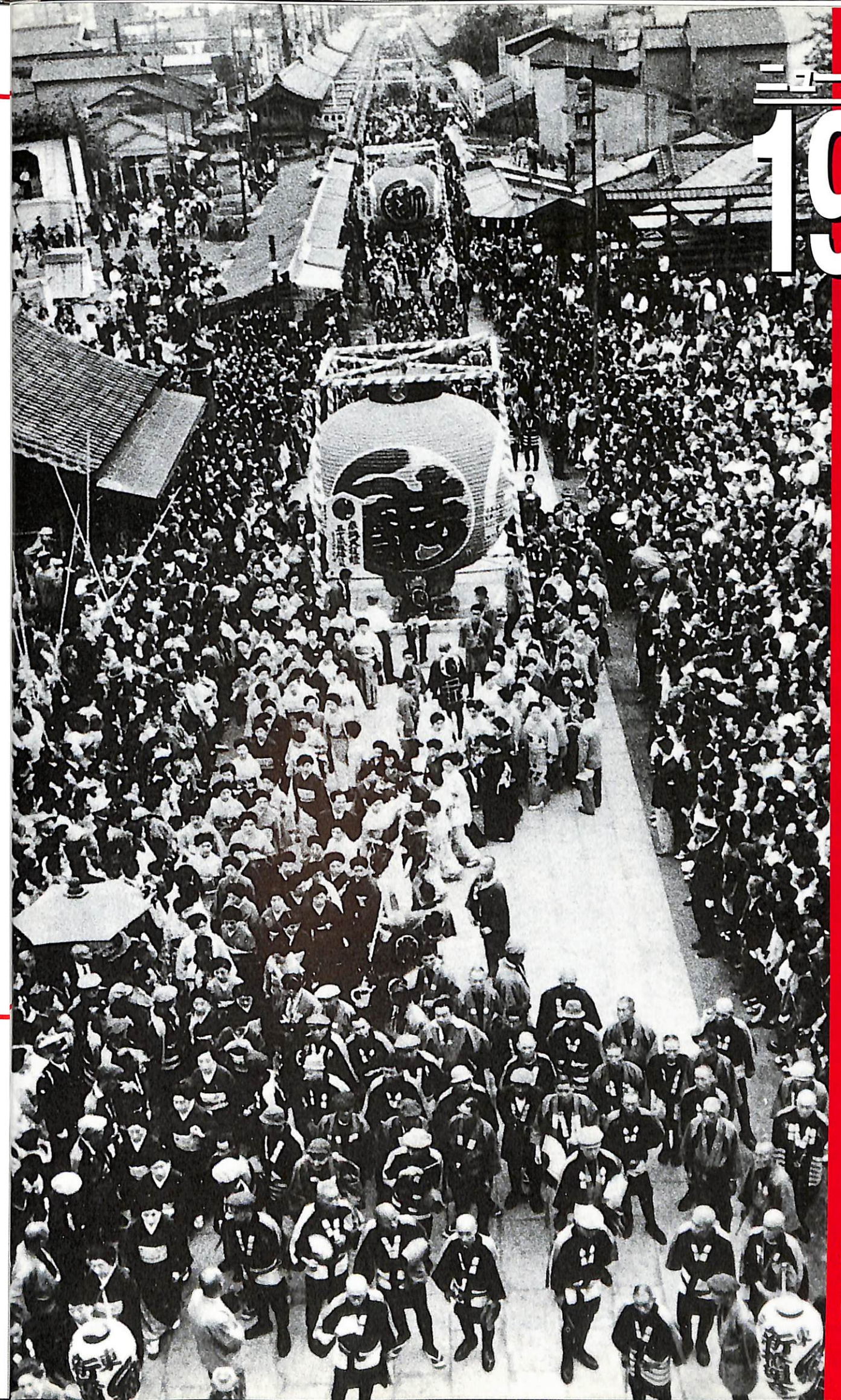
◀浅草寺再建落成祝い(5月30日)戦災で焼失した「観音さま」の本堂が復旧、15日からの御開帳を記念し、浅草・新橋・柳橋の三業組合が大提灯3個を奉納、芸者衆500人が木遣りをバックに、仲見世通りを練った。
毎日新聞社

## 1月

毎日新聞社

▲「少年自衛官」に人気(1月9日) 15〜17歳未満対象、定員310人に1万955人も応募。日教組の反対にもかかわらず、衣食住つきで月給5400円は魅力的だった。

毎日新聞社

◀栃錦(29)結婚(1月25日)前年横綱になった栃錦は、東京・銀座の料亭の養女・深沢勝子さん(23)と東京会館で挙式。式後、伊東へ新婚旅行に出かけた。

▶ジェームズ・スチュアート来日(1月26日)「グレン・ミラー物語」で知られる米国の俳優(46)が夫人とともに来日。帝国ホテルで子役スター・松島トモ子(9)から歓迎の贈り物を受けた。

毎日新聞社

▼「三原山心中」の男女を救出(1月6日)火口に向かう二人を大島署員が尋問したが、すきをつかれて飛びこまれた。翌日、死にきれずに火口底にいた二人を警察が決死の救出、女性(左端の担架)は右足首を溶岩で失っていた。

毎日新聞社

▼主婦連、10円牛乳運動(1月)原価4〜5円なのに1合(180ミリリットル)14〜15円する既存牛乳に対抗。前年末に東京・世田谷で開始、この月1000軒が加入した。

### 昭和30年1月

1(土)●共産党、武装闘争との絶縁論文を発表。
2(日)●長野県の菅平高原でバス転落。一四人死傷。
3(月)●東京・浅草の映画館で「シェーン」上映後、観客の手製ピストルが暴発し一人負傷。
4(火)●前穂高岳でナイロンザイル切れが転落死(八ミリのナイロンザイルは岩壁登攀使用禁止に)。
5(水)●米軍、冬季訓練のため富士登山道閉鎖を通告。
6(木)●山梨県中野村の古物商店で米軍演習地で拾ってきた不発弾が爆発。八人重軽傷。
7(金)●トヨタ、「トヨペット・クラウン」を発表。
8(土)●韓国で李ライン侵犯の日本人四九人に懲役刑。
9(日)●少年自衛隊員第一次採用試験。競争率三五倍。
10(月)●前年のヒロポンでの検挙者五万五六六四人。
11(火)●閣議、競輪・競馬の平日開催抑制方針を決定。
●前年の綿糸布輸出が戦後最高・世界一と判明。
12(水)●南方遺骨収集政府派遣団の「大成丸」、出港。
13(木)●「朝日新聞」、土地強制収用の実態など「米軍の沖縄民政を衝く」掲載(沖縄問題が活発化)。
14(金)●福井地裁、鯖江市制施行に弊害認め停止命令。
15(土)●高峰秀子・森雅之主演「浮雲」封切。
16(日)●全日本中小企業労働組合総連合会、結成。
17(月)●喫煙率四七%、一位は「新生」と専売公社調査。
●日米余剰農産物交渉を開始(5月妥結)。
18(火)●政府、総合経済六ヵ年計画の大綱を了承。
19(水)●世界平和評議会、ウィーン・アピールを採択。
20(木)●航空自衛隊に米政府から練習機など五九機の航空機引渡式を立川基地で挙行。
21(金)●共産党の志賀義雄、潜行四年半で大阪に出現(総選挙に出馬、2月27日当選)。
●改造社、労働協約問題で紛糾、編集局全員を解雇。作家、執筆拒否(9月23日全員退社)。
22(土)●東京都・神奈川県・川崎市、相模川水道分水契約に調印。一二年ぶり供給料金問題が解決。
23(日)●一二年の大修理終え法隆寺新堂の落慶式挙行。
24(月)●絶滅寸前のアホウ鳥を鳥島で発見、と新聞に。
25(火)●仏、南ベトナム政府に全権を移譲。
26(水)●ジェームズ・スチュアートが極東旅行で来日。
27(木)●アーニーパイル(東宝)劇場、米軍が正式返還。
28(金)●民間八単産が春季賃上げ共闘。春闘の発端。
●厚生省、覚醒剤問題対策本部を設置。
29(土)●日弁連、沖縄問題特別調査委員会結成を決定。
30(日)●南北朝鮮統一促進協の全国発起人大会で、民戦と民団が衝突し流会(両派の対立激化)。
31(月)●武蔵野市と三鷹市の合併反対派市民がデモ。

毎日新聞社

▲米軍貸与の駆逐艦2隻入港（2月25日）前年5月に調印されたMSA協定に基づき、日本の自衛力強化のため。防衛庁は新参の「あさかぜ」（手前）、「はたかぜ」（左）を含め第5護衛隊を編成した。

沖縄タイムス

◀柳家金語楼、沖縄慰問（2月11日）「沖縄タイムス」と琉球育英会などの招きで14日まで那覇市の大洋劇場に出演。「沖縄の人々に笑いを」が成功し、会場は連日超満員となった。

▼横浜中華街に大門（2月2日）中日協会と華僑総会が中心になって、戦前は「南京町」として栄えた街の復興をめざし、額を掲げた門・牌楼を完成。この日、完工式が行われた。総工費は県と市の補助を含め130万円だった。

共同通信社

毎日新聞社

◀ソ連に政変（2月8日）マレンコフ首相（写真右から3人目）が突然、経済政策失敗の責任を取り辞任、後任にブルガーニン国防相（その右）が就任。フルシチョフ第一書記との対立が原因とみられた。

共同通信社

▲日航、香港へも定期便（2月4日）前年の沖縄―東京―サンフランシスコ線開設で国際線に参加。この年3月に5億円もの赤字を出したが、好転すると強気に判断した。写真は香港への1番機「奈良号」。

朝日新聞社

◀老女95人焼死（2月17日）未明、横浜・戸塚区のカトリック修道院付属聖母の園養老院が全焼、職員二人、付き添い一人も焼死した。老朽化した木造2階建てのうえ、防火設備もなかった。

## 昭和30年2月

1（火）●防衛庁、F86戦闘機の国内生産計画を決定。
2（水）●横浜中華街の入り口に牌楼が完成し完工式。
3（木）●八幡・富士両製鉄、日本鋼管の三社、フィリピン企業とララップ鉱山開発契約に調印。
4（金）●閣議、対ソ国交正常化の交渉開始を決定。
5（土）●大蔵省、社内預金の規制と将来廃止を決定。
6（日）●新宿・花園の青線地域を捜索。一五四人逮捕。
7（月）●スウェーデン軍艦、七二年ぶりに来日。
●石垣綾子、「主婦という第二職業論」を発表。
8（火）●警視庁、連発式パチンコ禁止にともない単発式の基準を発表。オール20以上は禁止となる。
9（水）●東本願寺大寝殿の竹内栖鳳作の襖絵「雀の絵」から雀二羽の部分が切り取られる。
10（木）●総評、日本生産性本部への不参加を決定。
11（金）●米国務省、中国と砲火を交える大陳島からの第七艦隊による国民政府軍の撤退を発表。
12（土）●年賀はがきの寄付で日本初の輸血研究所完成。
13（日）●善光寺副住職に旧公爵家・鷹司栄子が決まる。
14（月）●日本生産性本部、設立。会長・石坂泰三。
15（火）●初の人間国宝に浜田庄司・松田権六ら三〇人。
●ライチョウ、カモシカが特別天然記念物に。
16（水）●ニューヨークで日ソ国交交渉開始で両国合意。
17（木）●横浜の修道院付属養老院が焼失。九八人焼死。
18（金）●丸紅、高島屋飯田を吸収合併（丸紅飯田に）。
●米、ネバダで小型原爆の実験を開始。
19（土）●日本ジャーナリスト会議が発足。
●二一日にかけ全国に強風、船舶遭難など被害続出。死者一六人、不明一〇七人。
●東南アジア集団防衛条約（SEATO）発足。
20（日）●輸出機械にアフターケアの悪さから不評続出で通産省が技師派遣を考慮と、新聞に。
21（月）●中卒の就職希望者が二四%増と都教育庁調査。
●自衛隊、艦艇三三、航空機一〇などが参加して創設後初の合同演習。
22（火）●大阪府、府営競馬・競輪を全廃と決定。
23（水）●前進座、大阪歌舞伎座など大劇場復帰を決定。
24（木）●電力中央研理事長・松永安左エ門、新鋭火力発電を主とする発電設備近代化三年計画を発表。
25（金）●米から貸与の駆逐艦二隻が横須賀に入港。
26（土）●ユネスコと日本文学の英仏訳出版の協定成立。この年は『暗夜行路』など四点と新聞に。
27（日）●第二七回総選挙（護憲派が三分の一を確保）。
●NHKテレビ、初の衆院選開票速報を放送。
28（月）●妙義山演習地、米軍の配備変更で接収解除。



共同通信社

▲中国通商使節団が来日（3月29日）雷任民団長らは各地を視察。5月貿易協定を調印、日本は機械など工業製品、中国は鉄鉱石・大豆などの輸出が決まった。写真は東京・日比谷の小型自動車展を訪れた一行。

▼連発式パチンコ禁止へ（3月31日）昭和27年に登場以来、業界をうるおわせてきたが、賭博性が高いと都公安委員会が4月1日付で禁止。都内のパチンコ店は、どこも閉店の夜11時まで大にぎわいとなった。

読売新聞社

▲高峰秀子、結婚（3月26日）「綴方教室」の子役、「二十四の瞳」の先生役などで知られる高峰（30）が、松竹助監督・松山善三（29）と東京で挙式。派手なことはしないと、39人だけを招くつつましい披露宴をあげた。

毎日新聞社

▶元公爵家令嬢、仏門に（3月26日）五摂家のひとつだった鷹司家の長女・栄子（25）が、長野の善光寺で得度、誓玉と改め住職後継者の修行に入った。現在は、善光寺住職兼善光寺大本願住職である。

▼米、東京湾の防潜網撤去（3月）5日、朝鮮戦争開始とともに、東京湾などに敷設したものを撤去すると発表、さっそく実施された。この撤去で船の航行と湾内の漁業が自由にできるようになった。

朝日新聞社

共同通信社

共同通信社

▶NHKホール開設（3月22日）放送開始30周年式にあわせて、東京・内幸町の東京放送会館内にできた。柿落としには西川鯉三郎の歌舞伎「春興鏡獅子」などが演じられ、皇太子が出席、観劇した。

## 昭和30年3月

1（火）●チャーチル英首相、英が水爆製造開始と言明。
●映画「この世の花」封切。同名の主題歌で島倉千代子がデビュー。
2（水）●プロレス遊びが流行、横浜市で中学生が死亡。
3（木）●都内一四の朝鮮人学校、各種学校として申請。
4（金）●日経連、春闘を前に賃上げは能率給とし、一律アップ要求には応じないと発表。
5（土）●都内三三の私設馬券屋捜索で二一二人逮捕。
6（日）●猪谷千春、全米学生スキー選手権で優勝。
7（月）●伊丹市立神津小一四教室の完全防音装置完成。
8（火）●米軍、東京湾入り口の防潜網の撤去を開始。
●通産・文部両省、国産愛用・合繊育成のため、合繊混紡の学生服推薦銘柄を発表。
9（水）●西本願寺、末寺に階級つける類聚制を復活。
10（木）●民放連、クイズ番組での賞金自粛などを確認。
11（金）●沖縄の宜野湾村で武装米兵が土地収用を強行。住民はテント生活へ（13日伊江島村でも）。
12（土）●浄土宗と浄土宗本派、一年交代の宗務当番制などで一致し、八年間の対立に終止符。
13（日）●山梨大で初の人造水晶合成に成功、と新聞に。
14（月）●防衛庁、防衛六カ年計画案策定。陸上一八万人、海上一二万トン、航空機一二〇〇機が目標。
15（火）●平凡社、『世界大百科事典』を刊行開始。
16（水）●米、ヤルタ会談の秘密議事録を公開。ソ連の対日参戦を条件に北方地域の領有を承認。
17（木）●米軍の旧制服三五万人分が自衛隊へと新聞に。
18（金）●南太平洋の遺骨収集船、五八八九柱乗せ帰国。
19（土）●第二次鳩山内閣成立。民主党の単独。
20（日）●南極海での捕鯨五輪で日本は過去最高を記録。
21（月）●武道振興の大日本武徳会、一〇年ぶり再建。
22（火）●上野動物園でタンチョウヅルの人工飼育による初の繁殖に成功、と新聞に。
23（水）●外務省、中国通商使節団の渡航証明書に「中華人民共和国」の記入を承認。
24（木）●マス・コミュニケーション倫理懇談会、設立。
25（金）●日米防衛分担金削減につき、正式折衝を開始（4月19日日本の負担金三八〇億円で妥結）。
26（土）●高峰秀子、松山善三と結婚。
27（日）●春闘第一波実施、私鉄三九組合が終日スト。
28（月）●エカフェ総会、東京で開会。議長に高碕達之助。
29（火）●中国からの最後の集団引揚げ船が舞鶴に帰港。
30（水）●映画「地獄門」、アカデミー賞名誉賞を受賞。
31（木）●前年の漁獲高はニシン、マイワシが激減、マグロなど遠洋漁業関連が急増、と農林省。

▲国産初のペンシル・ロケット発射成功（4月14日）東大生産技術研究所の糸川英夫教授（42、右）らが、東京・国分寺の試射場で水平発射に成功。直径1.8、長さ23センチと小さなものだが、後のカッパ・ラムダ型ロケットの基礎となった。

共同通信社

▶三笠宮、東京女子大で初講義（4月21日）自身が研究している古代オリエント史を1年間、週2時間の講義。初日は受講生60人が教室を埋め、さらに廊下や入り口も学生であふれた。

◀ひめゆり部隊、靖国神社へ（4月22日）沖縄戦で看護婦として従軍・戦死した沖縄師範女子部の職員・生徒88人のうち、佐久川米子さんら3人が初めて合祀された。写真は18日沖縄遺族団とともに東京駅に着いたひめゆり部隊の遺族。

共同通信社

▶本格テレビドラマ「日真名氏飛び出す」（4月9日）久松保夫演じる素人探偵・日真名進（左）と、カメラマン（高原駿雄）が活躍する事件もの。ラジオ東京テレビの人気番組になった。

TBS提供

▼通産省に原子力課発足（4月11日）原子炉の調査・研究のため設けられた。前年の予算計上と、この年1月、米国の濃縮ウラン貸与申し入れで、原子力時代がスタートした。

共同通信社

▼ラジオ東京テレビ（現・TBS）開局（4月1日）日本テレビに続く2番目の民放局。午前10時半から東京・赤坂のスタジオで行われた開局式典が実況中継され（写真）、舞踊「二人三番叟」など特別番組が放映された。

共同通信社

## 昭和30年4月

1（金）●ハナ肇ら、「キューバンキャッツ」結成（後に植木等ら参加「クレージーキャッツ」に）。
●ラジオ東京（現・TBS）がテレビ局を開局。

2（土）●東大教授・三好和夫、「第五福竜丸」があびたビキニの灰は致死量だったと報告。

3（日）●中国人民義勇軍が撤退開始と平壌放送。

4（月）●トヨタ自動車、中国通商団の工場視察を拒否。

5（火）●チャーチル英首相、辞任（後任にイーデン）。

6（水）●帝銀事件の平沢貞通、上告棄却され死刑確定。

7（木）●中国全人代常務委、対独戦争の終結を採択。

8（金）●春の甲子園、浪華商が延長戦で桐生破り優勝。

9（土）●ソ連、西独の独立で仏英との友好条約を破棄。
●初のレギュラースポンサーつきスタジオドラマ「日真名氏飛び出す」放映開始。

10（日）●文化服装学院が都体育館で五〇〇〇人入学式。

11（月）●通産省工業技術院に原子力課が発足。

12（火）●阪神の藤村富美男、史上初の二〇〇号本塁打を記録（7月16日大洋の青田昇も達成）。

13（水）●東京―八丈島間に一四人乗り定期航空便就航。

14（木）●東大生産技研の糸川英夫ら、国産ペンシル・ロケットの初の発射実験に成功。
●NHKテレビ「私の秘密」放映開始。

15（金）●戦後初の日中漁業協定調印（6月14日発効）。

16（土）●佐世保炭鉱でボタ山崩落。六八人が死亡。

17（日）●タイのピブン首相、世界一周の途上で来日。

18（月）●バンドンで第一回アジア・アフリカ会議開幕。
●ハンガリーのナジ首相解任、党政治局を追放。

19（火）●浜村秀雄、ボストン・マラソンで優勝。

20（水）●白鳥事件の弁護人、一四日の逮捕者は別人と抗議（28日札幌地検は人違い認め釈放）。

21（木）●三笠宮崇仁、東京女子大で初講義。

22（金）●東条英機らA級戦犯の遺骨を遺族に引き渡し。

23（土）●松竹、浅草国際劇場での東京おどりで国産初のシネマスコープ撮影を行う。

24（日）●前日からの統一地方選挙と三〇日の市町村議会選挙で、創価学会が五一議席を獲得。

25（月）●東都大学野球で日大の島津四郎が完全試合。
●広島の被爆者三人、国に損害賠償請求し提訴。

26（火）●中野区の国際学園学生寮で真性赤痢一一二人。

27（水）●帝国石油、秋田市の新油層から採油を開始。

28（木）●法務省、在日外国人の指紋登録を強行。

29（金）●小田原署、四五億円を稼いだヒロポン密造団の主犯を逮捕（5月27日密売の主犯を逮捕）。

30（土）●南ベトナムでクーデター。バオ・ダイ帝追放。



## 証言・あの日この日
## 阿部　昭（20）

4月20日（水）〈学校へ行って授業料を納めてから、お茶の水へ舞い戻って定期を買った。帰りだと窓口が行列だから。／午後の中島健蔵の近代文芸思潮は面白かった。「無知は許さん」とか「フランス語の出来ねえ仏学なんて意味がねえ」と訓戒をたれた〉（阿部昭『緑の年の日記』）

若き日の作家・阿部昭は、この春、東大フランス文学科に進級する。当時の東大仏文科のスタッフは実に豪華だ。4月23日、〈渡辺一夫の講義は気楽に聞ける。生徒にちょっと突っ込まれただけで赤くなり、大袈裟に恐縮して見せる先生だ。「オレ、俄然渡辺さんに傾倒しちゃってナ」などというファンも多いらしい〉。4月26日、〈鈴木信太郎の中世文法は、あくびが出るほど退屈なものだ。鈴木さんというのは坊主頭で、小さな人。某古寺の住職といったところだ〉。　（坪内祐三）

▼天皇、戦後初めて国技館へ（5月24日）前年の北海道を最後に、全国巡幸を終えられた天皇は、大相撲夏場所10日目へ。栃錦対三根山、朝潮対千代の山など、中入り後の全取組を身を乗り出して観戦された。

共同通信社

▲米軍、北富士演習場で実弾演習（5月10日）富士山麓住民の強い反対の中、実弾射撃が強行された（写真）。13日にはデモ隊と警官隊が衝突し負傷者が出たため、演習はいったん打ち切られた。

朝日新聞社

▲戦後初の学術探検隊出発（5月14日）木原均京大教授、今西錦司京大講師ら16人が4ヵ月間、カラコルムとヒンズークシ両山系を総合調査。写真左端はパン小麦の原種を発見した木原教授。

▶みおつくしの鐘（5月5日）子どもの夜遊び防止のため、大阪市庁舎屋上に取り付けられ（写真）夜10時に鳴った。母親たちの「身を尽くして子を守る」募金運動によってできた。

朝日新聞社

▶第1回東京国際見本市（5月5日）東京・晴海など2会場で、前年を大きく上回る規模の実質的な1回目が開かれた。22ヵ国が参加、機械類や農産物1600点が出品されたが、先進国の工作機械に人気が集まった。

毎日新聞社

## 昭和30年5月

1（日）●日魯漁業のさけ・ます四船団函館を出港（この年史上最高の二六船団が操業、以後減少）。

2（月）●全国の保健所で医師が四八％不足、と新聞に。

3（火）●原爆記録映画「無限のひとみ」主演の千葉亮、試写前に日赤中央病院で死去。一九歳。

4（水）●東京で二〇〇〇人が子どものための憲法教室。

5（木）●パリ協定発効、西独が独立国となる。

6（金）●経団連総会、保守合同を要請する決議採択。

7（土）●閣議、三〇年産米から供出割当制廃止と決定。

8（日）●米軍立川基地拡張反対集会。砂川闘争始まる。

9（月）●インド航空ボンベイ―東京線一番機が羽田着。

10（火）●米軍、北富士演習場での実弾射撃を開始。

11（水）●宇高連絡船「紫雲丸」、高松沖で貨物船と衝突・沈没。修学旅行生ら一六八人死亡。

12（木）●三島市の丸正運送店主、絞殺（丸正事件）。

13（金）●仏軍、ベトナム北半から完全撤退。
●月額一〇〇〇円の貸しテレビ流行、と新聞に。

14（土）●ソ連と東欧七ヵ国、ワルシャワ条約に調印。
●京大カラコルムヒンズークシ学術探検隊出発。

15（日）●A級空港に昇格し「羽田空港まつり」開催。

16（月）●地婦連、教育映画プロ設立で母親株主を募集。

17（火）●小児麻痺の新予防薬ソークワクチン輸入許可。
●通産省、価格二五万円、時速一〇〇キロなど安価で軽量な国民車育成要綱案をまとめる。

18（水）●富士自動車、特需削減で三七四五人削減発表。

19（木）●愛媛県吉海町で漁場争いから漁民数百人乱闘。

20（金）●政府、米の濃縮ウラン貸借を決め交渉開始。

21（土）●岸恵子主演「春琴物語」が東南アジア映画祭で最優秀劇映画賞受賞、岸は女優主演賞受賞。

22（日）●塩釜の中学で実験中の生徒三人が爆発で死亡。

23（月）●民主・自由党四者会談。保守合同を正式決定。
●前年の人身売買被害者は八六〇〇人と警察庁。

24（火）●天皇、戦後初めて大相撲を観戦。

25（水）●岩波書店、『広辞苑』刊行。定価二〇〇〇円。

26（木）●松川裁判批判を「雑音」と最高裁長官訓示。
●在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）、結成。

27（金）●日米余剰農産物協定に仮調印。日本が小麦・綿花など一億ドル分の農産物を購入（31日調印）。

28（土）●札幌からスズランの空輸第一便が東京に着く。

29（日）●女性のサンダルが流行、雨の日も、と新聞に。

30（月）●白井義男、世界フライ級ボクシングでペレスに敗れ、王座奪回ならず（6月2日引退）。

31（火）●日本で初開催のテニスのデ杯東洋ゾーン決勝、日本対フィリピン戦で日本優勝。

# 「現場」を歩く 砂川

## 「心に杭は打たれない」米軍基地反対から四三年目の新たな"闘争"

山本徹美

▲砂川自主耕作者連絡会が耕している畑。立川市側は、懇談会で南側に市民農園、野球場などを作ることを提案。　但馬一憲

昭和三〇年五月、米軍の要請を受け、調達庁が米軍立川基地拡張計画に乗り出した。これに対し地元・北多摩郡砂川町議会は全員一致で基地拡張に反対。二〇人の町議はすべて闘争委員となり、町民約一二〇人で結成された砂川町基地拡張反対同盟（青木市五郎代表）を支援した。

調達庁側は都に働きかけ、土地測量のための立ち入り公告を得ると、同年六月下旬から強制測量の行使にかかる。反対同盟は武器の類はいっさい持たず、スクラムでこれを阻止。数回の攻防を経て、調達庁は政府と協議、警官隊導入を決めた。一方、反対同盟側は三多摩労協など外部団体の支援を受けることにした。

九月一三日午前五時、両者が衝突。『東京百年史』によると警官一五〇〇人を擁した調達庁に対し、反対同盟は農民二〇〇人と労組員一〇〇人。スクラムは警官の振りかざす警棒によってずたずたに切断され、調達庁は測量用の杭を七本打ちこんだ。反対同盟・青木代表の弁。

「土地に杭は打たれても、心に杭は打たれない」

これは砂川闘争のスローガンとなった。

その後、三二年には測量阻止闘争に参加した反対同盟関係者が刑事特別法違反容疑で逮捕、うち七人が起訴された。三四年三月三〇日、東京地裁の伊達秋雄裁判長は「米軍駐留は違憲、刑事特別法は無効」とし、全員無罪を言い渡した。

政府は砂川地区のうち約一六ヘクタールを買収したものの、結局基地拡張には着手できず、四三年一二月、防衛施設庁は立川基地滑走路延長計画の撤回を発表した。

### 今度は関東財務局の警告

平成九年八月、私は砂川を訪ねてみた。国の買収した土地は金網フェンスで囲ってあるのですぐわかる。五日市街道の北約六・四ヘクタールはきれいに整地してあった。南側は荒地に畑が点在する状態で一部フェンスが壊され、そこに白い看板。関東財務局が平成九年八月一日付で発した「警告」が貼ってあり、整地工事を行うから農作物や小屋、物置などを撤去せよ、との内容だった。それに対抗して、砂川自主耕作者連絡会による「勝手に撤去はできない」という内容の小さな看板がいくつか目についた。立川市役所に訊く。

「南側も国有地で、畑は不法耕作にあたります。整地後は多目的広場として暫定利用する。利用案については国、市、住民の三者が『砂川中央地区まちづくり懇談会』を七回ほど開いて決めます」

砂川自主耕作者連絡会は平成九年三月に結成され、会員は四〇人前後。同会の加藤克子さん（六〇）の言い分。

「不法耕作は承知のうえです。国はあの土地を四〇年間ほったらかしにしていて、今年七月、私たちには一言の説明もなく整地にかかった。不信感は拭えない」

立ち退きを命じられた自主耕作の畑には雑草が生い茂り、親指ほどの小さな実をつけた茄子がたよりなげに揺れていた。

共同通信社

▲7月1日、対峙して睨み合う基地拡張反対同盟側と警官隊。

毎日新聞社

▲女性だけの撮影会（6月）1万円前後の安い二眼レフが登場、月賦も可能とあってカメラが身近になった。撮影会もさかんで、写真のようにプロ野球・西鉄の有吉、西村選手をモデルに女性だけの撮影会も開かれた。

読売新聞社

▲精神病院焼失（6月18日）千葉県市川市の式場精神病院で、監禁病舎から出火し本院などを全焼。患者158人のうち鍵のかかった鉄格子つきの監禁病室にいた患者18人が焼死した。

▼松元事件（6月10日）鹿児島市で旅館松元荘の主人が経営する建設会社で県の工事を請けようと、役人に少女ら24人を売春させた事件が発覚。この日事件が報告された。

毎日新聞社

▼ル・マン24時間レースで大事故（6月11日）33周目で2台の車が接触。1台が火を吹いて観客席に飛びこみ爆発、死者80人、負傷者100人というレース史上最悪の事故となったが、レースは続行された。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

共同通信社

▲第1回母親大会（6月7日）婦人運動家・平塚らいてうの呼びかけで、東京に全国から2000人が参加。3日目の最終日に「子どもの幸福、婦人の権利、戦争反対」など13の決議を採択した。

朝日新聞社

▲マンボ・ダンス大ブーム（6月）東京・後楽園の特設フロアで開かれたマンボ・ダンス大会に5000人が殺到。若者たちが、キューバのリズムにのって3時間も踊り通した。

## 昭和30年6月

1（水）●初のアルミ硬貨、一円が発行される。

2（木）●ソ連・ユーゴ首脳、和解のベオグラード宣言。

3（金）●京大創立記念行事めぐり同学会が滝川幸辰総長を監禁。警官隊出動（5日同学会解散命令）。●ロンドンで日ソ交渉開始（9月21日以降休止）。

4（土）●宇都宮市の作新学院三年生、長髪禁止などに抗議し同盟休校（～7日）。

5（日）●放送局が二二五局にふえ混信目立つと新聞に。

6（月）●全麦労連ストでビール生産停止（11日妥結）。

7（火）●第一回日本母親大会、開幕。二〇〇〇人参加。●日本、ガットへの正式加盟が認められる。

8（水）●比嘉琉球民政府主席、米下院外交委員会で米軍による土地収用の現状と調査を訴える。

9（木）●初の国際東方学者会議。一〇ヵ国七〇人参加。

10（金）●警視庁と米軍憲兵、麻布のキャバレーを捜索し全裸ショー摘発、踊り子ら一七人を逮捕。●石原慎太郎、小説「太陽の季節」発表。

11（土）●仏のル・マン自動車レースで八〇人死亡。

12（日）●米下院外交委員長、日本の対中貿易拡大支持。

13（月）●増上寺の土地二重売り事件で都建設局幹部が逮捕される（都職員の汚職逮捕は一三人目）。

14（火）●生産性本部の自動車工業調査団、米国へ出発。

15（水）●日本興業銀行で集団赤痢、四一〇人が欠勤。●電力九社、電源開発は火力に重点と決定。

16（木）●愛知用水公団の設立決まる（10月10日発足）。

17（金）●全国の電話加入台数二〇〇万台を超え、祝賀会を開催（戦前の二倍、世界第六位）。

18（土）●市川市の式場精神病院で火災、一八人が焼死。

19（日）●近鉄の武智文雄投手、パ初の完全試合を達成。

20（月）●谷内六郎に第一回文春漫画賞。

21（火）●原子力交渉妥結。米から濃縮ウランと、原子炉建設用資材貸与の日米原子力協定に仮調印

22（水）●最高裁、三鷹事件の竹内被告に死刑判決。

23（木）●男の帽子売れ行き不振、戦前の二割、と新聞に。

24（金）●岩手県岩泉町でウラン鉱調査を開始。

25（土）●ホー・チ・ミン、北京訪問し毛沢東と会談。

26（日）●歌舞伎の中村扇雀、東京駅で少女ファン三〇〇人に取り囲まれ、荷物エレベーターで脱出。

27（月）●重光葵外相、日本政府の承諾なく核兵器を持ちこまないことに米大使が同意したと言明。

28（火）●韓国政府、反日節約運動を指令。

29（水）●東大生産研、初の二段式ロケット飛行に成功。

30（木）●大阪・京都・横浜など五大市警が廃止され、府県警察に編入。「自治体警察」なくなる。

## ベストセラー
# 「八海事件」裁判を大胆に批判 正木ひろし執念の書『裁判官』

『裁判官』は、聖域とされていた司法の世界に真っ向から挑み大きな波紋を投げかけた本だ。著者の正木ひろしは現役の弁護士。人権を徹底的に追求する戦闘的弁護士として知られていたが、この本で言及したのは、被告側が冤罪を訴え最高裁で審理中の「八海事件」だった。

一、二審で死刑を宣告された被告からの手紙に感じるところがあり、裁判資料をひもとくうちに、当の被告および共犯者とされたものたちの無罪を確信し弁護活動に入った。事実誤認を理由に最高裁に審理を求めることはむずかしかったが、このままでは、国民が正しい裁判を受ける権利が危うくなると考えた正木弁護士は、この本で、事件を詳細に（殺人現場の写真まで掲載して！）追いながら、一、二審への批判を大胆に展開し、広く国民の関心と理解を求めたのである。これに対して、司法の側からの強い反発もあり、センセーショナルなベストセラーになった。

一方、新しい時代にふさわしい書物として、静かなブームを呼んだのが新村出編の『広辞苑』だ。戦前刊行された『辞苑』の改訂増補版を企図して編集を試みたが、大きく変化する時代に対応して面目一新し、収録語数も一五万語から二〇万語にふやすなど、たんなる国語辞典ではなく百科事典に匹敵する辞書となった。版元の岩波書店はこれを「一書当千の実を有する」と表現して世に問い、大いに歓迎されたのである。

また同じ年に、エロチックな方面の話題もたっぷり入った『はだか随筆』が大ヒットした。著者は一橋大学教授で理学博士の佐藤弘人。お硬い学者の軟らかいエッセイという洒脱さも受けた。

### ●昭和30年のベストセラー

| 順位 | 書名（著者／出版社） |
|---|---|
| 1位 | 『はだか随筆』（佐藤弘人／中央経済社） |
| 2位 | 『経済学教科書』（全4巻／経済学教科書刊行会訳／合同出版社） |
| 3位 | 『欲望』（望月衛／光文社） |
| 4位 | 『うらなり抄』（渡辺一夫／光文社） |
| 5位 | 『財閥』（岡倉古志郎／光文社） |
| 6位 | 『裁判官』（正木ひろし／光文社） |
| 7位 | 『広辞苑』（新村出編／岩波書店） |
| 8位 | 『うわばみ行脚』（福田蘭童／近代社） |
| 9位 | 『あすなろ物語』（井上靖／新潮社） |
| 10位 | 『不安の倫理』（石川達三／講談社） |

全国出版協会出版科学研究所

▲『はだか随筆』（150円）

▲『裁判官』（130円）

▲『広辞苑』（2000円）

## スターと名場面
# 森繁が演じた〝人情〟の世界「夫婦善哉」と「警察日記」

この年の映画は、人情の機微を描いた傑作が目立った。森繁久弥と淡島千景が、それぞれ老舗の若旦那と売れっ子芸者を演じた「夫婦善哉」（豊田四郎監督）では、カネの切れ目で縁も切れようかという、いかにも危なっかしい関係でありながら、逆に縁を深めていく男女の情が濃やかに描きだされた。

人情味の厚いボンボンというむずかしい役どころをみごとに演じた森繁久弥だったが、同じ年に公開された「警察日記」（久松静児監督）でも、捨て子にされた姉弟に愛情を注ぐ人情警察官を演じて観客の涙を誘った。会津磐梯山を仰ぎ見る田舎町で起こる悲喜こもごもの人情劇は、わが子を手放した母親を警察のジープに乗せ、ひそかに姉弟の姿を見せるシーンで、最高潮に達した。

また、成瀬巳喜男監督の「浮雲」で、森雅之と高峰秀子が演じた恋は、戦争の影から逃れえない男女の悲劇を浮かび上がらせた。戦時中に占領地の南方で生まれた恋が、戦後の東京で泥沼の中でもがくような苦しい恋となったのである。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「野菊の如き君なりき」（有田紀子、田村高広）「血槍富士」（片岡千恵蔵）「旅情」（キャサリン・ヘプバーン）「フレンチ・カンカン」（ジャン・ギャバン）

東宝提供
▲雪の降り始めた法善寺横町（オープンセットだった）を二人（右・森繁久弥、左・淡島千景）で歩く「夫婦善哉」のラストシーン。

東宝提供
▶森雅之（右）と高峰秀子（左）の入浴シーンも話題になった「浮雲」。

日活提供
▲「警察日記」で捨て子の姉弟（右・二木てるみが、天才的な名演技を見せた）に愛情を注ぐ警察官（森繁久弥）と、貧しい農家の娘（左・小田切みき）。

## モノ語り'55
# 「リコピー101」「セイコーオートマチック」「自動式電気釜」 オフィスで、家庭で、〝自動化〟が始まった！

▲**オフィス革命が始まった**　理研光学工業（現・リコー）が開発・発売した陽画湿式現像方式の複写機「リコピー101」は、手書きの写し作業を不要にし、オフィス自動化の先陣を切った。設計図面の複写などに用いる工業用の複写機はあったが、現像にアンモニアガスを用いるため排気設備が必要だった。そこで、オフィス向けに無臭のものを開発したのである。以降、急速にその質を高め、オフィスの必需品となっていく。

▶**自動巻き腕時計登場の衝撃**　服部時計店（現・セイコー）が国産初の自動巻き腕時計「セイコーオートマチック」を製造、自動巻き時代を招来した。腕の動きで、時計に内蔵されたマジックレバー（2本の連結棒）が動いてゼンマイを巻き上げるというもの。12時位置に、ゼンマイの残量を示すインジケーターがついていて、ゼンマイがどのくらい巻かれているか知ることができた。セイコーブランドならではの高級腕時計だった。

▼**公衆電話が店先でかけられる**　いわゆる赤電話「5号自動式卓上公衆電話機」の登場である。最大の特徴は料金前納式。それまでの後払い式だと硬貨投入のタイミングで無料通話も可能だったが、ここからは先払い式が普通になった。市内通話は10円で、時間無制限だった。もっとも、この頃は公衆電話で長電話するという習慣はなかったので、通話時間は問題にならなかった。

逓信総合博物館提供

▲**本格的な折り畳み傘が普及し始めた**　折り畳み傘の需要が天候に関係なく根強くあることに着目した丸定商店（現・アイデアル）が、試行錯誤のすえ、ついに開発したのが「スプリング式折り畳み洋傘骨アイデアル」である。従来の折り畳み傘にあった開閉時の煩わしさを、一気に解消したこの骨組みは、理想を追い求めてできた製品だから「アイデアル」と名づけられ、この年から倍々ゲームで売り上げを伸ばしていった。骨組みの卸値で300円だった。

◀**台所の自動化はここから始まった**　微妙な水加減、火加減が必要で、自動化は不可能と思われていた炊飯が、東京芝浦電気（現・東芝）による「自動式電気釜」の開発で、とうとう自動化された。スイッチを入れておけば、おこげやふきこぼれがなく炊けて、自動的にスイッチが切れるという画期的商品で、東芝指折りのヒット商品となった。2合～6合炊きで3200円、2合～1升炊きで4500円だった。

東芝科学館蔵／東芝提供

▼**男性も手を伸ばしたシャンプー**　粉状のシャンプーをアルミフォイルに入れて（3グラム入り）2袋綴りで10円という価格で売り出した、花王石鹸（現・花王）の「フェザーシャンプー」が爆発的なヒット商品となった。価格もさることながら、使い勝手のよさと、中性で泡立ちがよく爽快感をもたらす特質が、ポマードなどの整髪料を使い始めていた男性層をもとらえ、生産が間に合わないほどの人気を呼んだ。

▲**自分の体の状態を知る女性用体温計**　自分が妊娠可能期間にあるかどうかを判定できる「婦人体温計」が、仁丹体温計（現・テルモ）から発売され、女性の深刻な需要にこたえる器具として評判になった。いわゆる〝基礎体温法〟は、排卵が起こるとそうでない時より0.5度ほど高くなる点に着目したもの。普通の体温計より狭い温度域を細かく測定するので、より正確に基礎体温の微妙な変化をとらえることができるのである。

人物クローズアップ

# V・スタルヒン（三九）
## 亡命者ゆえの迫害にめげず日本初の三〇〇勝投手に！

日刊スポーツ

▲戦後、巨人時代の恩人・藤本定義に口説かれ、新球団パシフィックに入団した。

場所は京都・西京極球場。首位の南海ホークスから四五・五ゲームという絶望的な大差をつけられた最下位のトンボユニオンズは、この日、対大映スターズとのダブルヘッダー第一試合にヴィクトル・スタルヒン投手（三九）を起用、スタルヒンは期待にこたえて7対4で完投勝利をおさめ、日本初の三〇〇勝投手となった。昭和三〇年九月四日のことである。

ヴィクトル・ウイジャー・スタルヒンは、一九一六年五月一日、ロシアのウラル山脈東部にあるニジニー・タギルという人口三万人ほどの市に生まれた。父のコンスタンチンはロシア帝国の将校で、貴族の身分が与えられていた。翌一七年一一月、一家に運命の大転換が起こる。ロシア革命である。一八年、一家の逃避行が始まった。七年間の逃亡生活のすえ、一九二五年（大正一四）、一家は日本に亡命、北海道の旭川に安住の地をみいだす。そこで母がミルクホールを開き、父は行商をして生計を立てた。

スタルヒンの本格的な野球人生は、旭川中学（現・旭川東高校）に入学した時から始まる。その怪腕は、北海道ばかりでなく、全国に知れ渡るようになった。昭和九年一一月、ベーブ・ルースら全米オールスターチームが来日。スタルヒンは中学を中退し、全日本軍に参加する。同年一二月、全日本軍は解散して「大日本東京野球倶楽部」を結成。一一年二月、チーム名を「東京巨人軍」とし、スタルヒンは同年一一月、正式入団した。

日本のプロ野球の年間最多勝記録は、スタルヒンと稲尾和久の持つ四二勝である。昭和一四年、スタルヒンは四二勝一五敗という記録を作っている。この時、彼は沢村栄治に代わるチームのエースになっていた。こんな話がある。沢村はスタルヒンと並んで投球練習するのを嫌ったという。自分の投げるボールが遅く見えるから、というのがその理由だった。

スタルヒンの全盛期は、日本の戦時体制下の時代と重なる。亡命者でしかも無国籍というスタルヒンの立場は、悪くなる一方だった。昭和一五年、スタルヒンは「須田博（すだひろし）」という日本名に改名させられた。特高警察がつけまわすようにもなった。一九年、球団は彼を野球界から追放。そして彼は、ほかの外国人とともに軽井沢に幽閉されたのである。

戦後、球界に復帰したスタルヒンには、戦前の九年間に一九九勝した往年の力はすでになかった。パシフィック、太陽、金星、大映、高橋、トンボと戦後の新興球団を転々としながら、ようやく昭和三〇年に三〇〇勝を達成、通算三〇三勝一七六敗の成績で引退した。その年まだ三歳だった長女の小潟（おがた）ナターシャさんは、三〇〇勝の時の父の記憶をこう語る。

「家に大勢の記者がいて、父はその記者の人たちにボールを三個、指にはさんで見せていました。自分の指はこんなに長いんだ、と言いたかったのでしょうか」

スタルヒンの死は突然だった。三二年一月一二日午後一〇時三八分頃、世田谷区の三宿（みしゅく）で、みずから運転する自家用車が停車中の玉川電車の後部に激突、その二二分後に亡くなった。享年四〇歳。日本国籍の取得を願いつつ、ついに無国籍のままの死だった。

ナターシャ・スタルヒン提供

▲昭和9年、全米オールスターチームと対戦した全日本軍に参加。正式にプロ入りするため旭川へ戻った際、母のエフドキアと撮った記念写真。

▲300勝を達成し、表彰されたスタルヒンと家族。左から妻ターニャ、長女ナターシャ、右は長男ジョージ。この記録は、後に巨人の後輩・別所に破られる。 日刊スポーツ

決定的瞬間

# 濃霧の瀬戸内海で操舵ミス 無惨！「紫雲丸」遭難で子どもばかりがなぜ犠牲に

三月から六月にかけて、瀬戸内海は深い霧に包まれることが多い。昭和三〇年の五月一一日も、早朝から深い霧がたちこめていた。

午前六時四〇分、高松と宇野を結ぶ国鉄宇高連絡船「紫雲丸」（一四八〇トン）は、乗客七八一人を乗せ高松港を出航した。この中には島根、広島、愛媛、高知各県の小・中学校の修学旅行生三七九人も含まれていた。

出航後、霧はさらに濃くなり、視界は一五〇メートルにまで落ちこむ。出航して一五分、高松の北西四キロの地点で霧笛が激しく鳴り響き、「紫雲丸」は突然、強い衝撃を受けた。右舷前方から、高松港に向かっていた貨車航送船「第三宇高丸」（一二八二トン）が衝突し、その船首が「紫雲丸」の船体に食いこんだのだ。この衝撃で左に傾いた「紫雲丸」は、わずか五分で沈没した。

写真は傾いた船体が沈没しようとする瞬間である。撮影したアマチュア・カメラマンは、「かろうじて『第三宇高丸』に乗り移り、とっさにシャッターを切った」と説明している。

「紫雲丸」沈没による死者は一六八人にのぼり、しかも一〇〇人以上が児童だったというところに、この事故の無惨さがあった。子どもたちにも、衝突直後には「第三宇高丸」に乗り移るチャンスはあった。しかしおとなたちがわれ先に逃れ、子どもたちを後回しにしたのである。

広島県木之江南小学校の男子生徒は「オジちゃんたちがいっぱいかたまっていてボクは一歩も進めませんでした。（中略）メガネをかけた背の高いオジちゃんは、ボクをつきとばしました」（「サンデー毎日」昭和三〇年五月二二日号）と、その時の模様を伝えている。また、旅先で買った家族への土産物が気になり、船室に引き返した子もいる。ある小学生の遺体の手にはバッグが握られていて、その中からは海水でふやけた屋島名物の「瓦煎餅」が出てきた。

この事故のおもな原因は「紫雲丸」と「第三宇高丸」が濃霧の中にもかかわらず全速力（約一一ノット）で航行していたこと、また「紫雲丸」が衝突寸前に右に舵を切るべきなのに左に舵を切り「第三宇高丸」の進路に入りこんだためとされている。ところが、「紫雲丸」の中村正雄船長（五四）は船長室の内側から鍵をかけ船と運命をともにしたため、衝突間際に「なぜ、左に舵を切ったのか？」という理由はわからないままだ。

高松には事故を聞いた子どもたちの親が駆けつけ、一〇〇〇人を超える関係者で騒然としていた。遺体安置所で泣き崩れる母親。行方不明の子どもを待つ親は、海を見つめて立ちつくし、耐え難い時間をすごしていた。

事故の直接原因は、濃霧と両船長の操舵ミスだが、安全航行よりも時間厳守（連絡船は五分以上遅れると事故報告書を書かされていた）を重視した、当時の国鉄の体質にも批判が集まった。そして、何よりもくやまれるのは、極限状況の中で、児童を突きとばしてでも助かろうとしたおとなたちがいたことである。

◀沈みゆく「紫雲丸」にしがみつく制服姿の子どもたち。傾いてから沈没するまでの時間が短かったのは、積んでいた列車車両の荷崩れでバランスを失ったため。

▼衝突した「宇高丸」の目前で「紫雲丸」は左舷に傾き、みるみる沈んでいった。舷側から先を争って飛びこもうとする船客。

**美の出会い**

# 世界に例を見ない認定！伝統芸能、工芸を守る人々「人間国宝」三〇人の〝技〟

▲紡いだ麻を織機にかけ、布にする千葉あやの。この布を、季節の移り変わりに合わせて仕込まれる自然発酵の藍で染めると、生地がすり切れるまで色が褪せない。　元安伸一

昭和三〇年二月一五日、経済学者で浮世絵研究家の高橋誠一郎を委員長とする文化財保護委員会は、初の「重要無形文化財保持者」として、伝統的な芸能の演技者や工芸の技術者、二五件三〇人を認定した。芸能部門では能シテ方の一四世喜多六平太（八〇）、京舞の四世井上八千代（四九）ら一〇件一二人が、また工芸部門では志野・瀬戸黒の荒川豊蔵（六〇）、蒔絵の松田権六（五八）、伊勢型紙突彫の南部芳松（六〇）ら一五件一八人が選ばれた。次いで五月には、宮内庁式部職楽部部員や越後上布・小千谷縮布技術保存協会など団体指定三件と正藍染の千葉あやの（六五）、日本刀の龍泉貞次（五三）ら一二人が追加認定された。

戦後の混乱期、文化財の海外流出が著しく、政府は日本の貴重な文化財がなくなってしまうのではないかと危惧を抱いていた。そんな折の昭和二四年一月二六日に起きた法隆寺金堂の失火を契機に、翌二五年、文化財保護法が成立した。

世界にも例のないこの法の特徴は、建造物・絵画など有形文化財のほかに、演劇・音楽・工芸技術など無形の伝統的な「技」の保持者で、わが国にとって歴史上、または芸術上価値の高いものを無形文化財として保護することとした点にある。無形文化財のうち、特に重要なものや、これを高度に体現する人を保持者として認定したのである。そして、この認定保持者が一般に「人間国宝」と呼ばれている人々である。

しかし「人間国宝」と言っても、人間は従で、あくまでも「技」が主である。長年の功績によって栄誉をたたえられ、年金を支給される芸術院会員や文化勲章とは異なり、国からの補助はほとんど受けられなかった。中国文学者・奥野信太郎の「予算がないと結局保護でなく認定だけにとどまってしまうということになりますね」という問いに対し、高橋誠一郎は「認定された方たちの芸を録音するとか映画にとるという時に、ほんのわずかばかりのお礼をするくらいなものしかないわけです」（「芸術新潮」三〇年七月号）と答えている。当初は経済的援助はほとんどなく、昭和三九年度になってようやく、重要無形文化財特別助成金が支給されることになった。

初の認定者の顔ぶれは、文化勲章の受章者である喜多六平太をはじめ、多くの人がすでに社会的に〝功成り名を遂げている〟巨匠たちばかりである。そうした中で、正藍染の千葉あやのの認定は、国民に人間国宝に対する親近感と希望の光を与えるものとなった。日本民芸館館長の柳宗悦は千葉が選ばれると、すかさず喜びの声を発した。

「あれは何しろ技術もいいし、でき上がったものもいいし、材料もいいし、作る態度もいいし、何の非の打ち所もない。今度で一番頭が下がったのはあれです。（中略）涙が出るほど有り難いものだな」（「芸術新潮」三〇年八月号）

千葉あやのの存在については、文化財保護委員会のメンバーでさえ四年ほど前に知ったという〝掘り出し物〟だった。宮城県の栗駒山の麓に生まれた千葉は、養祖母の千葉マンに藍染の手ほどきを受けた。この地方には奈良朝末期～平安朝初期の頃から、日常着としての藍染の技法が伝えられている。千葉は「自分が着るものを染めているだけで、売るためではない」と折にふれてもらしていた。こうした千葉の認定こそ、文化財保護法の本来の趣旨にあったものと言えよう。

第一回の認定から平成九年六月の第四四回まで、重要無形文化財保持者の総数は二四四人にのぼる。その中には、ほおっておいたら滅びてしまったかもしれない伝統的な技術が、保護され復興された例を多数見ることができる。日本の伝統芸能や工芸技術を守り育てるのに、文化財保護法のはたした役割は大きい。

東京国立近代美術館蔵

▲堀柳女作「しずく」。昭和29年。高さ26センチ。堀は少女時代、竹久夢二の病気見舞いに人形を作って贈ったところ、夢二から「モノになる」とほめられたのが作家になるきっかけだった。

▶14世喜多六平太。能楽界の重鎮で、人間国宝の象徴的存在だった。「大竹のごとく」と言われる喜多流の芸風をみごとに演じ続けた。

喜多流目黒能楽堂／あびこ写真店

大堀一彦

▶松田権六作「鶴蒔絵硯箱」。昭和25年。高さ5.1×幅25.5×22.5センチ。東京芸術大学芸術資料館蔵。古典的な漆芸の研究から生まれた格調高い蒔絵を制作し、日光東照宮、中尊寺金色堂、正倉院宝物などの保存・修理・調査にも従事。

◀荒川豊蔵作「志野練上手茶碗」。昭和27年。高さ9.3×径13.3センチ。文化庁蔵。陶芸で志野と瀬戸黒の2件の技術で認定を受けた唯一の作家。ともに既に失われた古技術を再現したものである。

大堀一彦

# 「クソがついてもゼニはゼニ」
## 総評主導下に民間労組70万人が参加
# 「春闘」が始まった！

◀1月28日、総評加盟の5単産に3単産が加わり、「春季賃上げ共闘会議」を結成。写真は、気勢をあげる共闘会議の総決起大会。
連合通信社

昭和三〇年三月、総評の主導により八単産共闘の「春季賃上げ闘争」いわゆる「春闘」がスタートした。それまでの単一組合運動とは違い、いくつもの産別組合が統一スケジュールにそって闘うスタイルは、賃上げに大きく貢献し、日本の春の風物詩にもなっていった。

## 日本労働運動史初の画期的な賃上げ闘争

「われわれは凡ゆる産業、凡ゆる地域の労働者が、この闘争の勝利のために団結し、行動することを期待し、切望してやまない」

昭和三〇年三月二四日、日本労働組合総評議会（総評）は、この年から始まる春季賃上げ闘争に向け、こう檄を飛ばした。日本の労働運動に一大転機をもたらした「春闘」のスタートである。

三日後の三月二七日には私鉄総連の三九組合、六万余人が二四時間ストに突入。

---

# 20世紀博物館
# 雪印乳業史料館
## 手作りバター、アイスクリーム……〝おいしさの記憶〟が蘇る
北海道・札幌市

桑原茂夫

▲かつて北海道で限定発売されていた、キャラクター・アイスクリームの型。

雪印乳業札幌工場の敷地内に「雪印乳業史料館」がある。三階建ての洒落た建物で、中には、牛乳はもちろんのこと、バター、チーズ、アイスクリームなど乳製品の歴史と、現在の生産工程などが、びっしり詰めこまれている。雪印乳業が運営する史料館とはいえ、内容はひとり雪印乳業にとどまらない、乳業一般の史料館なのである。

工場見学プラス博物館といった趣のあるこの史料館に入って、ふと記憶に蘇ってきたのが、一九五〇年代前半に、初めて口に入れた北海道のバターのおいしかったことであった。これはしかし、かならずしも個人的体験に封じこめられるべきことでもない。

戦後、バターが本格的に生産されるようになったのは、たしかにこの頃のことだったのだから。

その時口にしたバターについて、ここで調べてみると、

▶アイスクリームのいろいろ。手前の黒いパッケージは、それまでの常識を打ち破ったとされる「宝石箱」（商品名）。

やはり現在の雪印乳業のもので、そのおいしさは一朝一夕に作り出されたものではなかった。

そもそも雪印乳業の前身は、北海道の酪農家たちが一体となっておいしいものを作ろうと結成された「北海道製酪販売組合」にあった。大正一四年のことで、この年すぐにバターの生産は始められていたのである。

この史料館には、当時のバター製造機とでもいうべき、木製で手まわしのチャーン（牛乳の脂肪分を攪拌する器械）の現物がある。一時間ほどぐるぐるまわしておよそ一四キロのバター素材が得られたというが、これを一日に五回もやってのけたというのだから、その腕っぷしもさることながら、おいしいものを作り出そうとする意欲には並々ならぬものがあったに違いない。

ちなみに、同じ場所に展示されている昭和二〇年代後半から五〇年代初めにかけて用いられていたステンレス製のメタルチャーンは、一回の攪拌で五〇〇キロのバター素材が得られたという。もちろん機械式なのだが、初期の手まわしによる攪拌機の三〇倍以上という大量の生産が可能になったということになる。

さて手まわしと言うと、アイスクリームも同様だったという。昭和二年に生産が始められているが、その頃は、生クリームに氷や空気を入れて、フリーザーを手でまわして作ったそうだ。手作りのアイスクリーム。たぶん、相当おいしかったのだろう。じっくり作っておいしくないはずがないではないか。

ところでこの史料館には、現在の生産ラインのミニチュアもあって、各乳製品の製造工程が一目で見渡せるようになっている。もちろん、こうした製造に関するものだけではなく、北海道の酪農を発展させていった先人の、リアルな足跡を残すポスター・広告の類や、最近のものでありながら、すでに懐かしさの領域に入ってしまった各種パッケージなども展示されていて、〝おいしさの記憶〟も大いに刺激される博物館であった。

▲吹き抜け階段に吊られている、世界各国74種のカウベル。牧場で牛がつける鈴である。

▲大正時代末期から使われていた、バターを作るための木製の手まわしチャーン（攪拌器）。

**●雪印乳業史料館**
北海道札幌市東区苗穂町六—一—一
☎〇一一—七〇四—二三二九
JR札幌駅から市営バスで約一五分、北六東一九下車、徒歩五分
電話予約制・ガイドつき
開館（受付）時間＝九時～一一時、一三時～一五時半
休館日＝五月連休後～一〇月末までは休館日なし。一一月～五月連休までは、土・日曜・祝日、年末年始

▶"太田ラッパ"の異名をとる総評全盛期のリーダー太田薫は、春闘方式を定着させ、三池争議など大争議の指導にも手腕を発揮した。

毎日新聞社

翌二八日には合化労連が、そして当時の総評の主力組合だった炭労にいたっては九八組合、一三万七〇〇〇人もの組合員が二四時間ストを敢行して賃上げを要求。春闘の第一波実力行使である。これだけの労働者が足並みをそろえたのは、日本労働運動史上初の出来事だった。

翌月四日からの第二波はさらに大規模なもの。全国金属、電機労連も加わり、スト参加者は約一七万人。全国一〇八の炭鉱で行われた部分ストによる石炭の減産は一日八万トン強と推定された。これは当時の一日産炭量の七割にあたる。結局、この年の春闘は、炭労が二二〇円プラス一時金六五〇円、私鉄八〇〇円などの賃上げを達成し幕を閉じた。最も成果を上げたのは、春闘の提唱者・太田薫合化労連委員長（四三）のお膝下で、硫安関係では月額最高二〇〇〇円という大幅賃上げに成功している。

平均一ケタ台の賃上げ率とはいえ、朝鮮特需が冷えこみ日経連が「賃金制度の合理化を推進」するという、逆風をはねのけた労働側の勝利だった。総評は五月一八日に春闘を総括する声明を発表した。「"闘えば獲れる"という自信を各産業労働者の間に拡大し（中略）この前進の基点が八単産七〇万の共闘にあった」

春闘が画期的だったのは、それまでの企業別組合や産業別組合の個別闘争ではなく、産業横断的に各単産が統一ストを構えるスタイルを確立した点にあった。それを決定したのは昭和三〇年一月二八日の「春季賃上げ共闘会議」であり、民間だけではあったが炭労、私鉄総連、合化労連など八単産が結集した。

しかし、当初は総評内でも賛否両論が渦巻いた。特に当時事務局長の高野実（五四）は政治色を薄めた「物取り闘争」として、「金ならクソがついていてもいいのか」と批判。それに対し太田薫は「賃上げという労働者の素朴な要求を取り上げて闘うのが労組の使命」と反論し、「クソがついていてもゼニはゼニ」と開き直ってみせた。結局、春闘成功によって太田薫が主導権を掌握し、同年七月の第六回定期大会で岩井章（三三）が事務局長に就任。賃上げ闘争路線を掲げる「太田―岩井ライン」が確立したのである。そして総評は、太田―岩井の指導のもと、より緻密な統一スケジュールと戦術を駆使した春闘を繰り広げていく。

## ピーク時の勢いは「昔陸軍、今総評」

「講堂が壊れるんじゃないかと思うくらい多くの参加者が詰めかけていました。あんなに熱気にあふれた討論は二度と経験できないでしょう」

当時、全国金属東京地方本部調査部長の内山達四郎氏は、昭和三一年一月一三日から千葉の鴨川で開かれた第一回賃金討論集会の雰囲気をこう語る。この討論会は賃上げ闘争の意義を論議し、本格的に春闘に取り組む意思統一の場となった。

また三〇年には態勢が整わず不参加に終わった、二二〇万人の組合員を持つ官公労が春闘に参加。春闘の動員規模は三〇〇万人規模に膨れ上がり、太田薫は三一年春闘の見通しについて「二・一ストを上回る神武以来のゼネストになる」と得意のラッパを吹き鳴らしたのである。

翌三二年からは国労の活動が活発化。東海道本線が大幅な遅れを出すなど、主要各線が混乱。足止めをくった通勤客が駅員に怒鳴りこんだり、大学受験生が試験に遅刻するなどの騒ぎとなる。熱海から帰京中の岸信介首相も、保土ケ谷駅で立ち往生した特急「あさかぜ」からタクシーに乗り換えて帰るありさまだった。この年の賃上げ率は八・六％を記録。労組との対決路線を打ち出す「闘う日経連」ですら、「賃上げは労組側の勝利に終わった。春闘を通じて総評の組織の強さ、戦術の巧妙さを率直に認めざるをえない」と敗北宣言を発表した。

昭和三九年には池田勇人首相と太田総評議長のトップ会談が実現。賃金相場をめぐって、政界と労働界のトップが協議するにいたり、評論家の大宅壮一はその隆盛ぶりを「昔陸軍、今総評」とたとえてみせた。高度経済成長時代には、賃上げ率も二ケタの大台に突入し、昭和四九年には春闘史上最高の三二・九％をマークする。

「高度成長時代の好景気を賃上げに反映できたのは、春闘の成果と言えるでしょう。しかし、所得のアップは皮肉にも人々を真剣な賃上げ闘争から離れさせ、春闘をマンネリ化させる結果にもなりました」と日本女子大学・高木郁朗教授は春闘の意義と限界について語る。

その後のオイル・ショックで賃上げより雇用が優先されるようになり、総評の組織力は低下。ストや争議件数、組合員数も減少の一途をたどり、平成元年、総評は連合に参加する形でその歴史を終えた。

▲岩井章は太田薫とコンビを組んで、30年以来15年間総評事務局長の座に。

▲翌昭和31年3月の総評主催・生活防衛決起集会。前年の成果は高く評価され、春闘方式は総評全体に拡大された。『総評30年史』より（左下も）

▶春季賃上げ闘争を盛り上げるための最初のポスター。

## フォト＋日録で再現する365日

◀夏のファッションは"落下傘"（7月）ディオールが発表したAラインの変形で、裾広がりのシルエットを持つ落下傘スタイル（写真）。裾を広く保つためにペチコートが登場、下着ブームの火つけ役となった。

影山光洋

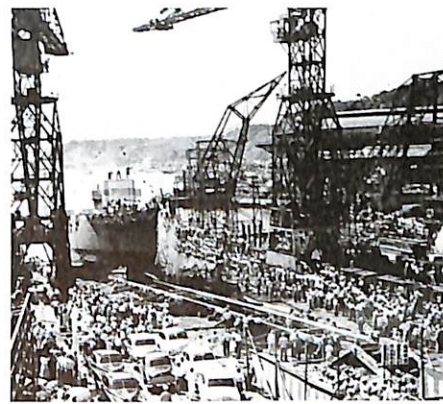
日本共産党提供

▲共産党、新路線（7月29日）第6回全国協議会を開催、従来の武装闘争を自己批判して党の統一を決議。記者会見で書記長・徳田球一（写真の遺影）の北京客死を発表した。

毎日新聞社

▲レスラー東富士、帰国（7月2日）修業のため2月に力道山とハワイに渡っていた。元横綱としては相撲関係者が出席しない異例の断髪式後の16日、33歳で蔵前国技館のリングに立った。

▶敷設艇「えりも」進水（7月12日）戦後国産1号艦として、横須賀の浦賀ドックで進水したが、エンジンの不調で引き渡しが遅れ、後発の敷設艇「つがる」に"国産1号"を譲った。630トン、速力18ノット。

共同通信社

▼女優侮辱問題（7月2日）前月のNHKラジオ番組で女優を売春婦扱いしたとして、俳優協会は出演拒否などで抗議。この日、京マチ子らが松村文相に善処を強く求めた（写真）。翌日NHKが陳謝した。

共同通信社

▶後楽園ゆうえんちオープン（7月9日）東京・文京区の後楽園球場脇に作られた初の都市型遊園地。時速60キロで走る、日本初の国産ジェット・コースター（写真）など機械主導で、おとなも楽しめた。入場料50円。

毎日新聞社

### 昭和30年7月

1（金）●棟方志功、サンパウロ・ビエンナーレで一等。
●大阪市内一六〇小学校の児童、ハエ取りコンクールで一週間に七一五万匹を捕獲と新聞に。
●東大に原子核研究所設置。所長・菊池正士。
2（土）●長谷川一夫らの東宝歌舞伎が第一回公演。
3（日）●横浜市の小学校で集団食中毒、七〇〇人超す。
4（月）●法改正で「危ない玩具」を規制、飛び出しナイフは所持禁止、空気銃は許可制。
5（火）●鈴木信太郎ら三人が二科会から脱退。
6（水）●通産省、鉄鋼合理化基本対策案を作成。
7（木）●プロレスに転向する東富士の断髪式挙行（16日オルテガ戦でデビュー）。
8（金）●売春地帯は戦前の五割増と労働省『売春白書』。
9（土）●各国首脳に核戦争の危機を訴える、ラッセル・アインシュタイン宣言発表。
●東京・文京区に「後楽園ゆうえんち」が開園。
10（日）●学生アルバイトの日当三〇〇円と学徒援護会。
11（月）●自主憲法期成議員同盟結成。一三二議員参加。
12（火）●初の国産自衛艦「えりも」、浦賀ドックで進水。
●国語審議会、小学三年までに平がなと片かなを併行して学習すべきとの結論を文相に報告。
13（水）●通産省、石油化学工業育成五ヵ年計画を発表。
14（木）●北区教委、汚染のため荒川放水路の水泳禁止。
15（金）●トニー谷の長男が誘拐される（21日犯人逮捕）。
16（土）●コロンボ計画での初の留学生団、比から来日。
17（日）●札幌で三〇年ぶり猛暑、三四度を記録。
18（月）●ジュネーブで米英仏ソ四ヵ国首脳会談。軍縮・東西交流を協議（～23日緊張緩和へ向かう）。
19（火）●衆院法務委、自由・民主両党の反対で売春処罰法案を否決（六度目の不成立）。
20（水）●経済審議庁が経済企画庁に改組される。
21（木）●都内の毒蛾被害者ふえこの日までに一六六人。
22（金）●工業技術院、アメリカ原子炉留学生二名決定。
23（土）●国井喜太郎らに第一回毎日産業デザイン賞。
24（日）●悪天候下の富士山盛況。山小屋に一万人殺到。
25（月）●日本住宅公団設立。
26（火）●総評大会。高野実敗れ、事務局長に岩井章選出。
27（水）●共産党、第六回全国協議会開催（～29日）。
28（木）●津市で水泳講習の中学生に高波。三六人死亡。
29（金）●自動車損害賠償法公布。強制保険を導入。
●米大統領、一九五七年までに人工衛星を打ち上げる計画を承認（バンガード計画）。
30（土）●地方道路税法公布。揮発油課税で道路整備に。
31（日）●東京で幼い姉弟が路上の冷蔵庫内で窒息死。



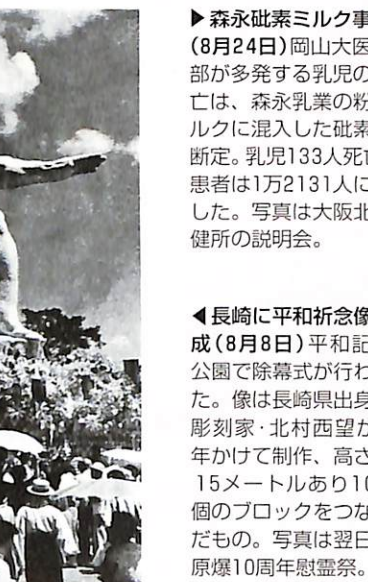
### 証言・あの日この日

## 片山敏彦（56）

10月23日（日）〈秋らしい快晴の日曜日。音楽研究家のK君夫妻が、バルトークの「オーケストラのためのコンツェルト」のLPをもって来て聞かしてくれた。この夏ヘルマン・ヘッセからバルトークのこの曲について書いた文章の新聞切抜を送られて読んだ私はこの曲をまだ聴いたことがなかった。それで今日、K君がその曲のレコードを聞かしてくれたが、これは私にとって大きい体験であった〉（『片山敏彦著作集』第9巻）

ロマン・ロランの紹介者として知られ、ある世代の若者たちのシンボル的存在だった教養主義者、片山敏彦は、文学だけでなく音楽や絵画も同じように愛する。それは一種の信仰に近い。そしてこの夜、片山は、〈この音楽によって心に見えた形と色とにもとづいて〉パステル画を描いた。〈それは奇妙な楽しさである〉。（坪内祐三）

毎日新聞社

◀軽井沢でテニスを楽しむ皇太子（8月）この年一般のトーナメントに出場。これを機に庶民とともにプレーする姿が見られるようになった。写真は清宮とプレーする皇太子。

▶森永砒素ミルク事件（8月24日）岡山大医学部が多発する乳児の死亡は、森永乳業の粉ミルクに混入した砒素と断定。乳児133人死亡、患者は1万2131人に達した。写真は大阪北保健所の説明会。

読売新聞社

毎日新聞社

◀長崎に平和祈念像完成（8月8日）平和記念公園で除幕式が行われた。像は長崎県出身の彫刻家・北村西望が5年かけて制作、高さは15メートルあり104個のブロックをつないだもの。写真は翌日の原爆10周年慰霊祭。

読売新聞社

◀広島平和記念資料館開館（8月24日）昭和26年着工、建築家・丹下健三の設計で平和記念公園に6日完成、この日オープン。原爆の熱線で変質した屋根瓦、衣類、食器など収集された被爆資料が多数展示された。

中国新聞社

▲青函トンネル、本格調査開始（8月7日）専門委員30人の現地調査で掘削は可能とされた。海峡中央部の地質状態が難問で、調査船による海底調査から始められた。写真は、調査船の位置を測定する海上保安庁の水路部員。

### 昭和30年8月

1（月）●墨田区の花火問屋で爆発。一〇〇人死傷。
2（火）●政府、国防会議に代わる防衛閣僚懇談会設置。
3（水）●原水禁署名が三一五七万二五四二人となる。
4（木）●初の独身青年集団移民一〇九人含むブラジル移民団三四四人が「あめりか丸」で神戸出港。
5（金）●防衛庁、新三菱重工業にF86F戦闘機七〇機、川崎航空機に練習機九七機の発注を内示。
●古川勝、二〇〇メートル平泳ぎで世界新記録。
6（土）●第一回原水爆禁止世界大会広島大会、開幕。
7（日）●東京通信工業（現・ソニー）、日本初のトランジスタラジオTR・55を発売。
8（月）●長崎の平和記念公園で平和祈念像の除幕式。
9（火）●防衛閣僚懇、防衛六ヵ年計画を承認。
10（水）●大阪商船が初の原子力船研究に着手と新聞に。
11（木）●野坂参三ら共産党の潜行幹部三人、逮捕。
12（金）●キャサリン・ヘプバーン主演「旅情」封切。
●被害続出の農薬パラチオンの所持・譲渡禁止。
13（土）●民主党、「うれうべき教科書の問題」刊行。
14（日）●米作が大豊作との予想で、農家は新築や洗濯機などの電化製品購入ラッシュ、と新聞に。
15（月）●繊維製品品質表示法公布。消費者保護のため衣料品に綿・化繊などの表示を義務づけ。
16（火）●京都の大文字送り、初めて市内のネオン消灯。
17（水）●韓国、自国民に対日往来を禁止（18日貿易も）。
18（木）●福島地裁、平事件（24年）の騒乱罪成立を否定。
19（金）●閣議、四日市、徳山、岩国の旧海軍燃料廠の石油各社への払い下げを了承。
20（土）●仏領モロッコで反仏暴動が起き仏人ら約七〇人殺害される。アルジェリアでも反仏暴動。
21（日）●日比谷公会堂の化粧品会社招待の公開放送に四〇〇〇人殺到、将棋倒しで女性六人が負傷。
22（月）●米極東陸軍、オネスト・ジョンの配備を発表。
23（火）●バクなどブラジルの珍獣八〇〇頭横浜に到着。
24（水）●森永砒素ミルク事件で、厚生省が森永乳業徳島工場製造の粉ミルクの使用禁止を通知。
25（木）●高校野球選抜チーム、ハワイ遠征へ出発。
26（金）●米映画「暴力教室」封切（9月13日文部省、青少年に見せないよう全国に通達）。
27（土）●部落解放全国委員会、部落解放同盟と改称。
28（日）●全米テニスで加茂・宮城組、日本人で初優勝。
29（月）●重光外相・ダレス国務長官会談（31日安保条約再検討、A級戦犯釈放など共同宣言）。
30（火）●砒素ミルクの森永徳島工場に営業停止三ヵ月。
31（水）●明大専任教授連合、学内民主化求めスト決議。

◀**棟方志功、サンパウロ・ビエンナーレで1等賞（9月5日）**7月「湧然する女者達々・勇然の柵」など5点が1等に入選。この日東京で柳宗悦ら友人50人が集まり、棟方（55、右）の激励会が開かれた。

▲**東京—神戸即時通話（9月1日）**電話回線が3倍に増設され、特急でも30分かかったものが、東京—名古屋—大阪間並みに1分で通話できるようになった。写真は記念通話する女優の中村メイコ。

▼**米映画「暴力教室」、18歳未満入場禁止（9月13日）**高校生が教師へ暴力をふるう過激な描写が問題化。青少年に有害な映画として、文部省が規制に乗り出した。

▶**A級戦犯が仮出所（9月17日）**終身刑で服役中の元陸軍大佐・橋本欣五郎、元陸軍中将・鈴木貞一、元蔵相・賀屋興宣の3人が東京・巣鴨拘置所を出所、出迎えを受けた。

▶**金閣寺復元（9月4日）**25年に放火で全焼後、全国から集まった3000万円をもとに再建。11日素屋根（写真）がはずされ、1階白木造り、2～3階が金箔でおおわれた400年前の金閣寺が姿を現わした。

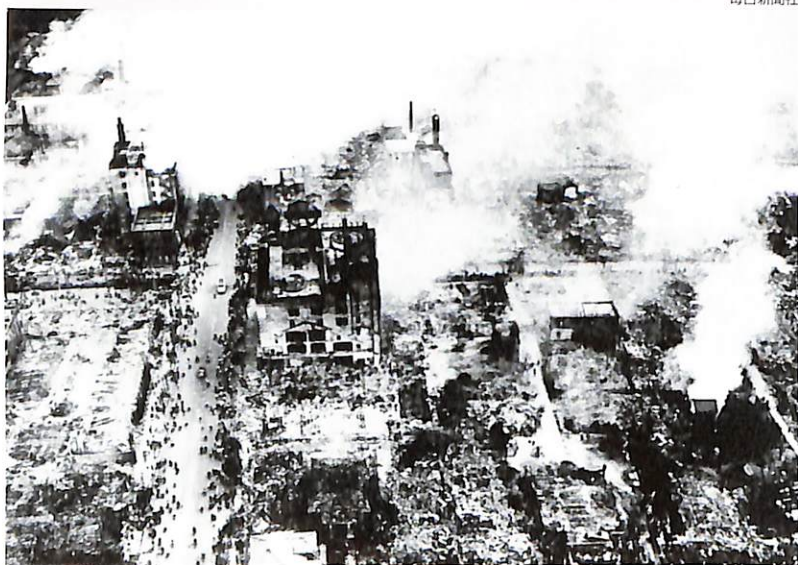
◀**石坂泰三らアメリカ視察から帰国（9月10日）**日本生産性本部は、5月から鉄鋼、自動車の調査団に続き、7月には石坂泰三らを統括団とする化学繊維・経営管理など5班の大型調査団を派遣していた。

## 昭和30年9月

1（木）●電電公社、大都市一六区間での即時通話を実施し、特急・至急・普通の三段階料金を一本化。
2（金）●特需は五年間で一六億一八七四万ドルと企画庁。
3（土）●沖縄で米兵が六歳の幼女を暴行・殺害（由美子ちゃん事件。12月6日米兵に死刑宣告）。
4（日）●プロ野球スタルヒン投手、三〇〇勝を達成。
●中国・国府両軍、金門島・厦門地域で交戦。
5（月）●「大阪読売新聞」、福引きなど二億円の「読者奉仕」を社告（11月5日東京高裁、停止命令）。
6（火）●外務省、ソ連抑留者一三六五人の名簿発表。
7（水）●住宅の増築融資は一戸七万円で開始と建設省。
8（木）●西独アデナウアー首相、訪ソ（13日国交樹立）。
9（金）●「朝日新聞」、宮城県の米軍基地で国府軍将校を軍事訓練と報道（外務省も認める）。
10（土）●左派社会党、左右合同の綱領草案を承認。
11（日）●電電公社、クロスバー自動電話交換機を設置。
●明治神宮本殿再建で用材の御木曳の式挙行。
12（月）●砂田防衛庁長官、民兵組織を作りたいと語る。
13（火）●ブリュッセルでの国際地球観測年会議、日本の南極大陸基地建設と観測隊派遣を決定。
●立川基地の測量強行で反対派と警官隊が衝突（14日二六人検挙、外郭測量を完了）。
14（水）●蔵相・一万田尚登、IMF（国際通貨基金）総会で各国の貿易制限排除を要望。
15（木）●修学旅行に関し文部省通達。小学校は日帰り。
16（金）●総同盟、日本生産性本部に正式参加。
17（土）●A級戦犯・橋本欣五郎ら三人、巣鴨を仮出所。
18（日）●大相撲秋場所が「ナイター」で開幕。
19（月）●原水爆禁止日本協議会（原水協）結成。
●アルゼンチンで軍が蜂起。ペロン大統領辞任。
20（火）●小中高校通信簿が各教科で五段階評価と決定。
21（水）●建設省、有料道路建設のため公団設立を決定。
22（木）●「洞爺丸」事件の裁決審判で船長の過失認定。
23（金）●映画行政一元化のため審議会設置を閣議決定。
24（土）●北海道議会、千島・歯舞諸島返還要望を決議。
25（日）●カンボジア議会、仏連合からの脱退を可決。
26（月）●都内の「豆スター」養成所は大繁盛と新聞に。
27（火）●通産省、一七ヵ所の競輪場新設不許可を決定。
28（水）●横綱千代の山と関脇若ノ花戦で、二度の対戦とも水入りとなり、異例の引き分け預かり。
29（木）●台風二二号が一〇月一日にかけ九州縦断。五四人死亡、三二人不明。
30（金）●ジェームズ・ディーン、交通事故死。二四歳。
●虚礼廃止などを唱え新生活運動協会発足。



▲**社会党統一（10月13日）**講和・安保条約の対応で昭和26年に左右両党に分裂したが、東京で統一大会を開催。委員長に鈴木茂三郎（右）、書記長に浅沼稲次郎を選出した。

▲**ヤンキース来日（10月20日）**マントル、ヨギ・ベラらが各地で16試合を行い、猛打を披露。日本は、セ・パ選抜軍が第3戦を引き分けたのが精一杯で、すべて敗戦だった。

▶**西海橋開通（10月18日）**長崎県大村湾の伊ノ浦瀬戸に架かった。固定式のアーチ橋で全長313メートル、総工費は5億5000万円。長崎と佐世保が最短距離で結ばれた。

▶**オネスト・ジョン初公開（10月14日）**核弾頭装着可能なミサイル砲で、埼玉県の朝霞基地で公開された。核配備のおそれがあるとして反対の声が強かった。

◀**新潟市大火（10月1日）**医学町の県教育庁から出火。台風22号通過直後の強風で、中心街が7時間にわたって燃え、972戸を全半焼、死者一人を出した。

## 昭和30年10月

1（土）●新潟市で大火。市役所など九七二戸を全半焼。
●第八回国勢調査。人口八九二七万五五二九人。
2（日）●市川猿之助、北京市長主催の国慶節招待会で歌舞伎上演。毛沢東・朱徳・周恩来ら観劇。
3（月）●NHKのテレビ受信契約数、一〇万件を突破。
4（火）●閣議、横田基地の五〇万平方メートル拡張計画決定。
5（水）●全国果樹研究青年大会、ジュース製造を圧迫するとしてコカ・コーラ輸入の反対を決議。
●熱海に初の国営老人ホーム「熱海荘」開所。
6（木）●電電公社、市外電話のダイヤル化、無電話地域の一掃など拡充計画大綱を発表。
7（金）●最高裁、料理屋への前借金は人身売買的契約として、一六歳の少女への返還請求を却下。
8（土）●糸価暴落で群馬県の製糸協会が一斉休業へ。
9（日）●東京・日野町の農家に米B26爆撃機墜落。
10（月）●都議会、一九六四年五輪の東京招致を決定。
11（火）●全繊同盟大手一〇社で全国一斉ストに突入。
12（水）●国鉄の金田正一、三四〇奪三振の日本記録。
13（木）●左右社会党、統一。委員長に鈴木茂三郎。
14（金）●J・ディーン主演「エデンの東」封切。
15（土）●三〇年の米穀収穫量は空前の豊作と農林省。
16（日）●頼母子講の取締りを大蔵省が通達、と新聞に。
17（月）●東京・晴海で初の中国商品見本市開催。
18（火）●宮城県松山町で四人の惨殺・焼死体発見（松山事件。12月2日容疑者逮捕、35年死刑判決）。
19（水）●防衛庁、「郷土防衛隊」設置の大綱を決定。
●東工物産、北朝鮮との初の貿易契約に調印。
20（木）●ニューヨーク・ヤンキース、来日。
21（金）●終戦直後ソ連要求の北海道分割占領案を米国が拒否、と米紙連載のトルーマン回顧録。
22（土）●ジフテリア続発し厚生省が厳戒態勢と新聞に。
23（日）●米下院軍事委軍用地問題調査団、沖縄を訪問。
24（月）●新宿駅でラッシュ時の「押し屋」が業務開始。
25（火）●吉川英治、紫綬褒章を辞退。
●八幡製鉄、五三〇万ドルの世銀借款協定に調印。
26（水）●ベトナム共和国（南ベトナム）成立。
27（木）●一八歳未満の質入れを断ると都質屋組合表明。
28（金）●ソ連の生化学者オパーリンが来日。
29（土）●都内の婦人会や町内会などの母親の間でバスの日帰り旅行が流行、と新聞に。
30（日）●東洋紡・呉羽紡労組、単独交渉に転換し争議解決（31日全繊同盟スト中止指令）。
31（月）●運輸省、一〇月の輸出用造船建造許可数が二八隻で戦後最高と発表（造船景気始まる）。

# 日録 20世紀 1955

## 11~12月

▼ライシャワー再婚（11月）お相手は明治の元勲・松方正義の孫で外国人記者クラブで働くハルさん（40）。ライシャワー（45）が休暇で、3人の子どもたちと来日中に知り合い、翌年1月6日に婚姻届を出した。

毎日新聞社

▲山下清、初めて大阪見物（11月18日）絣の単衣、下駄ばき姿でリュックを背負い、大阪城やストリップ小屋を見てまわった。この年6月には『山下清画集』が出版され、各地で展覧会が開かれるなど、人気になっていた。

毎日新聞社

◀郭沫若、来日（12月1日）学術視察団団長の郭沫若は戦前六高、九州帝大に留学、また昭和3年から9年間の亡命生活を日本ですごしたため、およそ1ヵ月にわたる訪問は日本各地で歓迎された。

毎日新聞社

▼保守合同、自民党発足（11月15日）日本民主党と自由党が「政局安定のため」合同し、自由民主党の結党大会を東京で開催。衆院299人、参院118人を擁する勢力になったが、党内抗争が激しく総裁を選出できなかった。

▼前進座の中村翫右衛門、北京から帰国（11月4日）24年座員と共産党に入党、27年の北海道公演中に潜行して中国に渡った。仲間の河原崎長十郎らに出迎えられた。

▼船橋ヘルスセンター開場（11月3日）大小約50の浴場、演芸つきの大広間のある娯楽場が埋め立て地に出現。入場料120円で終日遊べるため、1日8000人が入場した。

ららぽーと提供

### 昭和30年11月

1（火）●江利チエミ・美空ひばり・雪村いづみ初共演の「ジャンケン娘」封切。
●北海道の雄別炭鉱でガス爆発。六〇人死亡。

2（水）●フランスの建築家ル・コルビュジエ、上野の国立西洋美術館設計のため来日。
●諸橋轍次著『大漢和辞典』、刊行開始。

3（木）●船橋市に日本初の船橋ヘルスセンター開業。

4（金）●中村翫右衛門、潜行三年で北京より帰国。

5（土）●オランウータンが二〇年ぶりに上野動物園へ。

6（日）●全日本選抜バレーで女子は日紡貝塚が初優勝。

7（月）●米軍、東富士演習場で核弾頭搭載可能なミサイル、オネスト・ジョンの試射を強行。

8（火）●邦画六社、上映時間を二時間半に制限で合意。

9（水）●都市勤労者の月収は二万六二六二円と総理府。

10（木）●主婦連、森林保護のため門松廃止を決議。

11（金）●湯川秀樹ら世界平和アピール七人委員会結成。

12（土）●鳥取・岡山県境の人形峠でウラン鉱床を発見（54年濃縮ウランの生産開始）。
●NHKラジオ、「お笑い三人組」放送開始。

13（日）●景気回復か、都内の質屋の入質高は三割減少、逆に質流れは五割もふえている、と新聞に。

14（月）●米軍、佐世保港の防潜網撤去を開始（日本の港湾の航行制限はなくなる）。

15（火）●保守合同で自由民主党発足。

16（水）●前年の倍の日本漁船をソ連拿捕と海上保安庁。

17（木）●行管庁、国鉄の放漫経営につき運輸相に勧告。

18（金）●運輸省、日航の福岡―沖縄線開設を許可。

19（土）●北海道南部では連日イカの大漁で相場暴落、海岸にイカが大量に捨てられていると新聞に。

20（日）●静岡市の東照宮宝物館で家康の時計など盗難。

21（月）●群馬県の須田貝発電所完工。初の全地下式。

22（火）●初のプロレス・アジア選手権で力道山王座に。

23（水）●全日本仏教会、中国の抗議を退け、「三蔵法師の霊骨」の一部を台湾へ贈ると決定。

24（木）●日中輸出入組合、創立。貿易窓口を一本化。

25（金）●日本の外貨手持高が一四億ドル突破と日銀。

26（土）●ソ連、新型水爆の高空実験に成功と公表。
●NHKテレビ、四元放送で「追跡」を放映。

27（日）●五万人参加し「日本のうたごえ祭典」開催。
●東京で沖縄返還国民運動協議会結成大会。

28（月）●通産省発表、一〇月の全国百貨店売り上げが前月比三八・五%の急増。

29（火）●東京税関、時計二万個密輸入の一一人を逮捕。

30（水）●(財)原子力研究所、発足。理事長・石川一郎。



毎日新聞社

▼国産1号のロッキード機完成（12月）川崎航空機岐阜製作所が、生産を始めたT33Aジェット練習機。すでに米軍の指導で操縦訓練を実施、戦闘部隊も編成されていた。

▲大阪市営住宅、申し込み受け付け（12月7日）725戸の住宅を求めて、申込所の大阪中央公会堂を長い列がとりまいた。この頃の住宅不足は全国で280万戸におよんだ。

▼ヌード喫茶、取締り強化（12月7日）10月頃からコーヒー杯100～120円で大阪に登場、大にぎわいだったが、大阪府公安委は度がすぎると営業禁止を決めた。

▶李ラインで陳情デモ（12月5日）西日本の漁業関係者代表が、李ライン撤廃と抑留漁民の釈放を求め東京をデモ、鳩山首相（中央）に陳情した。643人が抑留されていた。

毎日新聞社

▲坂田栄男九段、囲碁最高位（12月22日）日本棋院最高位戦で島村俊広八段を下し、第1期最高位に。「カミソリ」と呼ばれる鋭い碁風で一時代を画した。

毎日新聞社

▼ヒッチコック、日本の休日（12月12日）世界旅行の途中夫人とともに5日間滞在。「裏窓」などで有名なスリラー映画の巨匠は、見物する先々でとぼけた素顔を披露した。

毎日新聞社

### 昭和30年12月

1（木）●郭沫若ら中国学術視察団が来日（～25日）。

2（金）●東京に初のファッションショー常設館開館。

3（土）●名瀬市の中心部で火災、一三六二戸が焼失。
●厚生省、森永砒素ミルク事件の回収粉ミルク六三万個の廃棄処分を決定。

4（日）●大川橋蔵初主演の「笛吹若武者」封切。

5（月）●米でキング牧師らのバス・ボイコット始まる。
●漁民ら五〇〇人、李ライン排撃行動大会開催。

6（火）●二八年着工の佐久間ダム、貯水を開始。

7（水）●大阪府公安委、ヌード喫茶の営業禁止を決定。

8（木）●南極学術探検隊予備調査員、大阪を出港。

9（金）●群馬県境町の島小学校（斎藤喜博校長）、参観希望相次ぎ第一回公開研究会を開催。

10（土）●富士山五合目の山小屋に公衆電話を設置。

11（日）●衆院、ユネスコ万国著作権条約批准案可決。

12（月）●日本学術会議、南極探検隊の極寒訓練を網走・濤沸湖で一ヵ月行うと決定。

13（火）●日本の国連加盟にソ連拒否権を行使。

14（水）●パントマイムのマルセル・マルソー来日。

15（木）●日航、ダグラス社にジェット旅客機四機発注。

16（金）●清瀬一郎文相、紀元節を復活させたいと表明。

17（土）●韓国、対日貿易を三一年から再開と発表。

18（日）●甲府市の金桜神社で火災。重文など八棟全焼。

19（月）●原子力基本法公布。「平和利用」に限定。

20（火）●「うたごえ運動」の関鑑子にスターリン平和賞。

21（水）●通産省、米向け綿製品の輸出制限実施を決定。

22（木）●都議会、交通料金の値上げ案可決。都電一〇円を一三円、都バス一五円を二〇円に。

23（金）●済州島南方の李ライン外の日本漁船二隻が、韓国兵が乗船してきたと打電して消息を絶つ。

24（土）●トヨタ、日産など五社首脳会談、「国民車」の早期実現をめざすと申し合わせる。

25（日）●ユネスコ提唱の世界翻訳計画で、日本の中世以来の作品二〇点が英仏訳される、とパリ発。

26（月）●砒素ミルクの被災者同盟、森永の不買を指令。

27（火）●平均寿命は戦後一〇年で、女が五四歳から六八歳へ、男が五〇歳から六四歳、と厚生省。
●経企庁、空前の輸出増大と豊作で日本経済の規模が拡大し「数量景気」実現と閣議に報告。

28（水）●厚生省が『国民栄養白書』。体位は戦前並みに回復したが、白米の過食が目立つと警告。

29（木）●NHK「うたのおばさん」が二〇〇〇回に。

30（金）●東京の気温、一二月では史上二位の二〇・七度。

31（土）●日銀貸出残高、二一年六月以来最低となる。

# 我楽多市（がらくたいち）

## 流行語
### ロックのリズムにしびれる

「暴力教室」。この年秋に公開された米映画の題名で、そのすさまじい内容から各地で上映禁止になった。しかしこの映画が若者たちに与えた影響は大きく、特にバックに流れるロックンロールの強烈なリズムは若者たちをしびれさせた。これが翌年のエルビス・プレスリー・ブームの先ぶれとなった。

「頼りにしてまっせ」。映画「夫婦善哉」で、主役の頼りないボンボン（森繁久弥）がしっかりものの芸者（淡島千景）に向かってつぶやくセリフ。「男らしく」といったイメージとはほど遠い男の弱さを表す言葉として流行した。

「なんと申しましょうか」。NHKの野球解説者・小西得郎の口癖で、早口のアナウンサーとは対照的なのんびりした口調が人気を博した。

「最低ネ」。舟橋聖一の小説「白い魔魚」に出てくる文句。女学生の間で下品、レベルが低いという意味で使われた。

「パセリ」。昭和二八年からパセリを料理の添えものにすることが大流行。それが転じて女性にベタベタくっつく男がこう呼ばれた。

◀七五三の11月15日、明治神宮では和服姿でスニーカーを履いたアメリカの子どもたちが人目をひいた。

## 酒
### 酒の〝世論調査〟では名古屋はコップ酒党

国税庁が全国六〇〇〇人のおとなを対象に「酒についての世論調査」を行った。それによると男性の三四％は月に五～一〇日飲んでいて、毎日酒なしではいられない人も約一一％（約六五〇人）いることがわかった。酒の種類で多いのは清酒で六〇％、次いで焼酎の二〇％、合成清酒の一〇％。ビールは夏は四〇％に達するが、年間通すと率は低い。また東京・大阪の男性は居酒屋愛好者が多いが、名古屋では酒の小売り店でコップ酒という人が多いこともわかった。

（「週刊読売」五月八日号）

## サラリーマン
### 退職金は二〇三万円 戦前の三分の一以下

日経連の調べによると退職金の全産業平均は、旧大学卒・三〇年勤続で二〇三万円、小卒で九六万円となっている。そのうちトヨタ、日産の自動車メーカーがズバ抜けて高く、旧大卒が五二八万円、小卒が三七五万円。最低はD電線の小卒二〇万円である。ちなみに戦前、一流会社で二、三十年つとめれば二、三万円の退職金は普通だった。これを換算してみると六〇〇万円から九〇〇万円になる。

（「労働タイムス」二一一号）

## CM100年

新聞CM「1粒で2度おいしい——アーモンドグリコ」（江崎グリコ）

新発売
ALMOND GLICO グリコ
1粒で2度おいしい
アーモンドグリコ
しゃぶって おいしい牛乳の味
かめばアーモンドの香ばしさ
アーモンドはカリフォルニヤ・アフガニスタンなどに産する果実で、世界最高級の香味品です
発売記念・お子様サービス
「百面童子」へ ニュース・マンガ・歌の玉手箱など ご招待！
アーモンドグリコの空箱を、当日会場へお持ちください。10円5コ または 20円2コ ではいれます
大阪 4月4日 アサ8時半 道頓堀 大阪東映
神戸 4月5日 ヒル2時 三越前 海員会館
京都 3月31日 ヒル2時 丸太町 京都新聞ホール
3月29日同時封切館
10エン 20エン

▶グリコが新発売したキャラメルの広告。アーモンドの名称が耳新しかった。

©石ノ森章太郎

▲石森（現・石ノ森）章太郎が高校時代に描いたデビュー作「二級天使」。「漫画少年」1月号から連載。

## 流行
### シラガ染めが中年女性に人気

シラガ染めの需要が、初めて年間一〇〇万ダースに達した。九〇万ダースが過去最高だから、ここへきて急速に伸びたわけ。昔はシラガを染めるのに一八時間かかったが、明治時代、石炭からシラガ染めが作られると一時間に短縮された。このブーム、美しくありたい中年女性がふえたためという。

（「週刊サンケイ」四月二四日号）

## データ
### 電柱の借地料は宅地で二一四〇円

東京電力は管内で一二〇万本の木製電柱と二万本のコンクリート製電柱を使用している。その借地料は年間、一本につき次の通り。

| | |
|---|---|
| 国道 | 一七〇〇円 |
| 田 | 一六〇〇円 |
| 畑 | 一四七〇円 |
| 宅地 | 二一四〇円 |
| 公道 | 八七〇円 |

（東京電力広報室調べ）



## 三面記事
### 元提督が観光ガイドで活躍

外人向けの観光ガイドが今、大受け。日本通訳協会によると、同会に所属する会員は全国で二七〇人で、東京一五〇人、横浜三三人、京都二五人、神戸二九人などがおもなところ。この中には戦時中、日本だけでなく、敵国にもその名を知られた海軍中将が二人、少将が一人含まれているが、客の外国人が旧日本軍に反感を持っていたらいけないというので、本名は伏せて活動中。彼らの日当は客が六人以下で一日一三〇〇円、それ以上は一六〇〇円。もちろん交通費、食費、宿泊費は向こう持ち。このほかに客からのチップがすごいが、これはガイド仲間にきつい箝口令が敷かれており不明。

二七〇人の中には学生ガイドが三九人いて、新しい言葉も知っているし、機転もきくとご夫人方には大好評。ただし〝夜の探訪〟となると遊び慣れた初老のガイドの方が断然人気という。

（「週刊東京」九月三日号）

▲鳩山内閣成立を反映して、鳩に乗った「鳩山びな」（手前）が登場。

## 相撲
### 〝タニマチ〟の元祖は相撲好きの医者だった

〔大阪発〕相撲の後援者のことを〝タニマチ〟と言う。その語源となった医者がこの年亡くなった。この人は薄恕一といい、慶応二（一八六六）、旧黒田藩（現・福岡県）の藩士の長男として生まれた。父が西南の役で西郷隆盛方についたため、国事犯として手配され、幼い頃には大変苦労した。医学の修業をした後、明治二五年、大阪・谷町筋で外科医を開業。「貧乏人はタダ、金持ちは裕福度に応じて二倍、三倍」の診療代を取る医者として知られた。

唯一の趣味が相撲で、幕下でも大関でも怪我をすると、治るまでタダで治療してやった。これが力士たちに感謝され、〝タニマチ〟と言えば怪我の面倒を見てくれる先生を意味した。それがいつしか「面倒を見てくれる先生」→「小遣いをくれる人」になったという。

（「中日新聞」平成四年二月二五日）

共同通信社

◀「スターとマンボを踊る会」でダンスする有馬稲子と佐田啓二（背番号22）。

# はやり歌

キングレコード提供

▲三橋美智也の初めてのヒット曲。どこかに民謡の雰囲気を漂わせた歌いっぷりが新鮮だった。

### おんな船頭唄

作詞 藤間哲郎
作曲 山口俊郎

嬉しがらせて　泣かせて消えた
憎いあの夜の　旅の風
思い出すさえ　ざんざら真菰
鳴るなうつろな　この胸に

所詮かなわぬ　えにしの恋が
なぜにこうまで　身を責める
呼んでみたとて　はるかな灯り
濡れた水棹が　手に重い

利根で生まれて　十三七つ
月よあたしも　同じ年
かわいそうなは　孤児同士
今日もお前と　つなぐ舟

### 月がとっても青いから

作詞 清水みのる
作曲 陸奥　明

月がとっても　青いから
遠まわりして　帰ろう
あの鈴懸の並木路は
想い出の小径よ
腕を優しく組み合って
二人っきりで　サ、帰ろう

月の雫に　濡れながら
遠まわりして　帰ろう
ふと行きずりに　知り合った
想い出のこの径
夢をいとしく抱きしめて
二人っきりで　サ、帰ろう

月もあんなに　うるむから
遠まわりして　帰ろう
もう今日かぎり　逢えぬとも
想い出は捨てずに
君と誓った並木路
二人っきりで　サ、帰ろう

テイチク提供

▲独特の声と節回しで一世を風靡した菅原都々子の、最大のヒット曲で、ロングセラーにもなった。



## 社会
### 全長二〇㍍の鯨が盗まれた!?

〔長崎発〕大洋漁業の捕鯨船「文丸」（三九五㌧）から長崎県厳原海上保安部へ「鯨が盗まれた」と届け出があった。同船が五島列島沖で捕獲したナガス鯨で全長二〇㍍。前日の夜、陸から約一五〇㍍の沖にブイをつけて沈め、数時間後、引揚げに行ったところ、鯨をゆわえていたロープが切断され盗まれていたという。

同保安部では盗んだ場所からみて小型の漁船の仕業とにらみ、「漁船が二〇㍍の鯨を引っ張ってはそう遠くへは逃げられないはず」と、東シナ海で鯨盗っ人を追跡することになった。

（「朝日新聞」九月二四日）

才能教育研究所提供

▲3月27日、東京・千駄ケ谷の東京都体育館で、才能教育研究会の第1回全国大会が開かれた。1万人の聴衆を前に演奏する出演者たち。

## この年の初もの
### チンドン屋の全国大会 富山市でスタート

●開票速報　NHKテレビが二月の衆議院総選挙から実施。

●本物のセミを使ったイヤリング　岐阜市の昆虫業者が考案したもので、セミをプラスチックで固めた。ほかに小ガニのイヤリングやブローチも。

●撮影喫茶　東京・新宿に登場。コーヒー代一〇〇円で元映画のスチールカメラマンが、二人のデートの様子を撮影してくれるというもの。土、日には二時間待ちの人気だった。

世界の動き

# 「エデンの東」「理由なき反抗」「ジャイアンツ」わずか3作の主役で時代を駆け抜けた ジェームズ・ディーン、24歳で事故死!

▶激突して大破した愛車ポルシェ・スパイダー。この事故は、3作目の「ジャイアンツ」完成直後に起きた。

ユニフォト・プレス

**「エデンの東」「理由なき反抗」「ジャイアンツ」のわずか三作に主演して、二四歳の若さで突然この世を去ったジェームズ・ディーン。若者の孤独や不安、憤りを体現した一人の青年の生涯は、そのたぐいまれな才能とあまりに早すぎる死ゆえに、永遠に語り継がれる伝説となった。**

## ピア・アンジェリへの失恋が事故の原因?

一九五五年九月三〇日の夕方、カリフォルニア州郊外のパソ・ロープルス街道を、銀色のポルシェ・スパイダーが猛スピードで走っていた。カーマニアの俳優ジェームズ・ディーン(二四)が、ボンネットやリアデッキを改造し、〝リトル・バスタード(小さなならずもの)〟というニックネームを与えていた愛車だった。

国道の交差点に近づいた時、前方から大型の黒いセダンが現れ、左折しようとした。夕闇に染まったポルシェは周囲の景色に溶けこみ、セダンの運転手がその姿を確認した時は既に遅く、二台の車はすれちがいざま衝突した。「まるで爆発時のような音がした」と現場に居合わせた人が語ったすさまじい激突音とともに、ポルシェは路肩にはじき飛ばされて大破した。車内のディーンの腕と足は力なく垂れ下がり、首もだらりとドアに預けたかっこうだった。一目で首の骨折とわかる状態で、駆けつけた医師は、午後五時五九分、ディーンの死亡を確認した。

人気沸騰中だった若手ナンバーワンの俳優の死という衝撃的なニュースは、すぐさま全米、いや世界を駆けめぐった。

この年、父と息子の相剋を描いたスタインベック原作の「エデンの東」が公開されるや、主役のキャルを演じたディーンはたちまちトップスターの座に駆け上がる。父親に理解されない若者の葛藤を、陰影をこめて情熱的に演じ切ったディーンは、ジョン・ウェインやジェームズ・スチュアートなど、従来の正統派スターとはまったく違っていた。〝陽気で屈託のないヤンキー〟、というアメリカ映画のスター像をくつがえす、異質なニューヒーローの登場であった。

日本でもこのディーンの死の約二週間後——一〇月一四日、「エデンの東」が公開された。ロードショー当日は映画館の前に若い女性の行列が続き、観客動員数は、東京ピカデリー劇場で二〇万人、都内の東宝シネスコ・チェーン五館で約三五万人という最高記録をマーク。そのほか、大阪で三〇万人を突破、名古屋でも六万人強と、全国的に大ヒットを飛ばし、プログラムの売れ行きも普段の二〜三倍にのぼった。

続く「理由なき反抗」では、決定的な才能を見せ、人気は不動のものとなる。ディーン自身が体現した「傷つきやすく反抗的な若者」像は、若い世代の圧倒的な共感を集め、「マーロン・ブランドの二番煎じ」というそれまでの否定的な批評を吹き飛ばしてしまったのである。

ディーンの主演作は遺作となった「ジャイアンツ」を含め、この年だけで三本。出演料もデビュー時の一万五〇〇〇ドル、二万ドルと順調にアップし、さらにワーナー・ブラザーズ社とは映画一本のギャラを一〇万ドルにするという契約を結んだ直後の事故死であった。

事故の真相には諸説が飛びかったが、「エデンの東」撮影中に知り合ったイタリアの新進女優、ピア・アンジェリ(二二)への失恋が原因だったともいう。ディーンはピアとの結婚を考えていたが、ピアは別の男と結婚。ディーンの生活は荒み、事故につながったとも言われる。

一九三一年二月八日、インディアナ州マリオンに生まれたディーン(本名ジェームズ・バイロン・ディーン)は、九歳で母を亡くし、叔母一家に引き取られる。本格的な舞台俳優をめざし、エキストラなどの下積み時代を経て、超一流の演劇ワークショップ、ニューヨークの「アクターズ・スタジオ」に入学をはたす。そこで、繊細な感性と大胆奔放な演技力で

SHOOTING STAR/PPS

▲「エデンの東」。愛情に飢えた孤独な青年を熱演し、センセーションを巻き起こした。

SHOOTING STAR/PPS

▲「理由なき反抗」。反抗的なティーンエイジャーに扮して、人気が急上昇。

THE KOBAL COLLECTION/G.I.P.Tokyo

▲「ジャイアンツ」。当時のスーパースター、エリザベス・テイラーと共演した大河ドラマ。

▶ディーンにとって、唯一心が安らぐのは車のハンドルを握っている時だけだった。

SHOOTING STAR/PPS

# 往きて還らぬ

▲11月30日　大山郁夫(いくお)(75)
元早大教授。大正デモクラシーの代表的な論客で、労働農民党委員長として活躍。昭和26年スターリン平和賞受賞。

▲12月12日　百田宗治(ももたそうじ)(62)
詩人。大正7年詩集『ぬかるみの街道』で絶賛され、15年詩誌「椎の木」を創刊。児童詩の普及にも尽力した。

▲12月14日　安井曾太郎(そうたろう)(67)
洋画家。肖像画を得意とし、独自の安井様式を確立。昭和27年文化勲章受章。代表作に「坐像」「桃」など。

▶4月20日　下村湖人(しもむらこじん)(70)
小説家。台北高校校長をつとめた後、退職。昭和一一年『次郎物語』を書き始め、第五部まで書いたが未完。

▲8月12日　トーマス・マン(80)
独の小説家で、1924年『魔の山』を発表。1929年ノーベル文学賞受賞。ナチスを批判して米へ亡命後、スイスで死去。

共同通信社
▲10月13日　辻善之助(ぜんのすけ)(78)
元東大教授。仏教史研究の第一人者。元史料編纂所所長。昭和27年文化勲章受章。著書に『日本仏教史』(10巻)。

▶11月5日　モーリス・ユトリロ(71)
仏の画家。女流画家の母親に手ほどきを受け、パリの裏町の風景を描き続けた。代表作に「サン・ドニの教会」など。

共同通信社
▲6月3日　恩地孝四郎(おんちこうしろう)(63)
版画家。創作版画の先駆者。大正3年に詩と版画の同人誌「月映(つくばえ)」創刊。大正7年日本創作版画協会を設立。

共同通信社
▲7月28日　宮武外骨(みやたけがいこつ)(88)
反骨のジャーナリスト。個人雑誌「滑稽新聞」など発行。昭和2年東京帝大明治新聞雑誌文庫の主任に。奇人で有名。

▶4月18日　アルバート・アインシュタイン(76)
米の理論物理学者。一般相対性理論を完成させ、一九二一年ノーベル物理学賞受賞。一九二二年来日。

▲2月17日　坂口安吾(さかぐちあんご)(48)
小説家。無頼(ぶらい)派で知られる。昭和21年『堕落論』『白痴』で人気作家となった。睡眠薬中毒で健康を害し脳出血で急死。

毎日新聞社
▲3月12日　チャーリー・パーカー(34)
1940年代にニューヨークで活躍したジャズ・サックス奏者。ジャズの新潮流「ビ・バップ」を生む。麻薬中毒で急死。



外から見たNIPPON

## 郭沫若が旧友・谷崎潤一郎に熱気をこめて語った〝日本の革命〟

——佐伯　修

▶詩人で学者で政治家だった。

中国の文学者で古代史研究者としても知られる郭沫若(かくまつじゃく)(一八九二〜一九七八)は、この年の一二月一日、中華人民共和国の国家的学術研究機関、中国科学院の学術視察団団長として来日、三週間あまり滞在した。

郭は当時、中国科学院院長の要職にあったが、今回の来日は、まだ国交のない日本に対する、学術文化政策面での中華人民共和国のPRのため、という色彩が強く、滞在中、共産主義の〝広告塔〟として右翼の妨害に遭(あ)う一幕もあった。

ともあれ、九州帝大医学部を中退し、日本で文学結社「創造社」を結成した郭には、古い日本の友人も多く、六日には帝国ホテルで三〇年来の友、谷崎潤一郎と対談した。

「郭　(前略)私は来てからまだ六日しかたたないが、やっぱりよくわかったことは、日本はもう一度明治維新に入るだろうということです。それは人民の力が軽視できないということですよ。

谷崎　あんまり流血の惨事がないようにうまくやらなければ……。

郭　もう一度大化改新(たいかのかいしん)が来ますよ。しっかりしなさい。心配しちゃいけません。……われわれがそうであったんですから……(熱のこもった力強い声で)。

谷崎　犠牲のない改革がいいですね。郭さんの言われるように激しいものではなく徐徐に移り変るといいんですがね。(後略)」

(「朝日新聞」一二月七日)

革命への期待を語る郭の熱気に、さしもの谷崎も、やや気圧(けお)されたかっこうである。

しかし、郭の方でも、そんなに鼻息を荒らげてばかりいたわけではない。日本滞在中、彼は、鵠沼(くげぬま)で水死した中国国歌「義勇軍行進曲」の作曲者、聶耳(じょうじ)の墓に、しみじみと詣(もう)で、戦前、中国関係の書店・出版社として著名だった「文求堂書店」主人の田中慶太郎の死をおしみ、夫人を慰めている。

また、五日午後、千葉県市川市のかつての自宅を、一八年ぶりに訪ねた郭は、以前のままの書斎や、育った庭木、そして旧知の近所の人々に囲まれて語っている。「この先に墓があるでしょう、散歩するたびにこの石の下に埋められると思っていましたがネ……今でも市川の土は身体の中に生きていますヨ」(「毎日新聞」一二月六日)

一八年前の七月、盧溝橋(ろこうきょう)事件勃発(ぼっぱつ)の報に、帰国して抗日戦に参加することを決意した彼は、早朝、眠っている妻・をとみ(安娜(あんな))と五人の子を残し、浴衣姿でこの家を出た。そんな旧居訪問の夜、彼は市川で芸者の手踊りと、鰻(うなぎ)の蒲焼きを堪能したそうだ。

頭角を現し、ブロードウェーでも主役を演じている。その実績をひっさげてのハリウッド入りだった。彼を「エデンの東」の主役に抜擢したのは、「欲望という名の電車」などで知られる監督エリア・カザン(四六)だった。

### 転向者カザンが描いた屈折した人間像の魅力

ディーンが演じた挫折や葛藤に苦悩する青春像は、一方でマッカーシズム、つまり「赤狩り」の後遺症を引きずっていたアメリカの悩みと苦しみの投影でもあった。一九四〇年代後半から一九六〇年頃にかけてアメリカ中を荒れ狂った「赤狩り」の対象は、ハリウッドをはじめアメリカ全土にまでおよび、その圧力に屈した転向者が続出する暗い時代であった。

カザンも、転向者の一人であり、後に「映画人仲間を売り渡した」と指弾(しだん)されている。マッカーシズム以降に撮影された「エデンの東」には、転向者カザンの苦い体験が吐露(とろ)されていた。

とはいえ、この頃は多くのアメリカ人がうしろめたさを抱えていた時代だった。「赤狩り」を通して、人間の弱さや醜悪さを目のあたりにしたアメリカ国民は、だからこそ、ディーンの演じた屈折した人間像に共感の拍手を送ったのかも知れない。

ディーンは死後、マリリン・モンロー、エルビス・プレスリーと並ぶアメリカのポップカルチャーの三大スターに数えられた。

三島由紀夫は、ディーンを「(彼のすべての魅力は)もしその迅速な死がなければ、確実に、たちまち色褪(あ)せるはずのものだった」と評したが、夭折(ようせつ)し、スターー像が永遠に色褪せないためだろうか、死後四〇年経過した現在もディーンの人気は健在である。

**ジェームズ・ディーン**(1931〜1955)
米国の俳優。映画デビューした年に事故死したが、青春の絶望や反逆の象徴として偶像化されている。

デニス・ストック／マグナム・フォト
▲ディーンは、撮影の最中に孤立し、周囲のものを遠ざけて、自分の殻に閉じこもってしまうことも珍しくなかった。

既刊40冊! 1940・1960・1970年代がそろいました。

# 週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第41号 12月2日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

## 1956[昭和31年]

●特集
「慎太郎刈り」がはやり太陽族が闊歩 騒然! 「太陽の季節」芥川賞受賞/憧れの2DKにステンレス流し台 「団地族」誕生/二月六日、「週刊新潮」創刊 "週刊誌時代"が始まった!/フルシチョフが暴いた"恐怖政治"「スターリン批判」、衝撃の三時間半!

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する366日…ひばりファン圧死(1月15日)/米国務長官ダレス来日(3月18日)/日本隊、ヒマラヤのマナスル初登頂(5月9日)/株価、天井知らず(6月6日)/原子力発電開発スタート(8月10日)/ハンガリー事件勃発(10月23日)/日本、メルボルン五輪で金メダル四の快挙(12月1日)

●人物クローズアップ
"言論人"宰相、石橋湛山の引き際

●決定的瞬間
スエズ運河国有化に英仏が報復攻撃!

●美の出会い
棟方志功、ベネチアでグランプリ

●女たちの肖像…江上トミと初のテレビ料理番組/勝者・敗者…猪谷千春、冬季五輪で銀!/証言・あの日この日…秋山駿、山川均/20世紀博物館…島津創業記念資料館(京都)/「現場」を歩く…圧死事故と彌彦神社/外から見たNIPPON…"対日協力者"胡蘭成と戦後日本

●ベストセラー…V・フランクル『夜と霧』/スターと名場面…「ビルマの竪琴」「真昼の暗黒」/モノ語り'56…テトラパック牛乳、合成洗剤「トップ」

■既刊好評発売中

創刊号1959[昭和34年] 第2号1964[昭和39年] 第3号1945[昭和20年] 第4号1970[昭和45年] 第5号1963[昭和38年] 第6号1958[昭和33年] 第7号1972[昭和47年] 第8号1980[昭和55年] 第9号1976[昭和51年] 第10号1989[平成元年]

第11号1960[昭和35年] 第12号1961[昭和36年] 第13号1962[昭和37年] 第14号1965[昭和40年] 第15号1966[昭和41年] 第16号1967[昭和42年] 第17号1968[昭和43年] 第18号1969[昭和44年] 第19号1941[昭和16年] 第20号1942[昭和17年]

第21号1943[昭和18年] 第22号1944[昭和19年] 第23号1946[昭和21年] 第24号1947[昭和22年] 第25号1948[昭和23年] 第26号1949[昭和24年] 第27号1950[昭和25年] 第28号1923[大正12年] 第29号1971[昭和46年] 第30号1973[昭和48年]

第31号1974[昭和49年] 第32号1975[昭和50年] 第33号1977[昭和52年] 第34号1978[昭和53年] 第35号1979[昭和54年] 第36号1951[昭和26年] 第37号1952[昭和27年] 第38号1953[昭和28年] 第39号1954[昭和29年] 第42号1957[昭和32年]

■今後の刊行予定

▶第43号1931[昭和6年]12月16日発売
エノケンと軽演劇全盛時代●黄金バットとのらくろ●「満州事変」勃発!●エンパイア・ステート・ビル完成

▶第44号1932[昭和7年]12月22日発売
「満州国」建国●大森ギャング事件とスパイM●五・一五事件●「ターザン」とワイズミューラー人気

▶第45号1933[昭和8年]平成10年1月6日発売
皇太子明仁親王誕生●三陸大津波の恐怖●特高、小林多喜二を虐殺●日本、ついに国際連盟脱退へ

▶第46号1934[昭和9年]1月13日発売
室戸台風の猛威●贋作浮世絵「春峯庵」事件●「大日本東京野球倶楽部」設立●中国紅軍、長征開始

▶第47号1935[昭和10年]1月20日発売
大本教に大弾圧●作られた美談「忠犬ハチ公」●第四艦隊事件●スウィング全盛とベニー・グッドマン

▶第48号1936[昭和11年]1月27日発売
日本を震撼させた二・二六事件●ベルリン五輪の"明暗"●西安事件●エドワード8世「王冠を賭けた恋」

▶第49号1937[昭和12年]2月3日発売
盧溝橋事件勃発、日中全面戦争へ●戦艦「大和」着工●南京虐殺事件●女性飛行家イアハート謎の遭難

▶第50号1938[昭和13年]2月10日発売
幻の東京五輪●代用品時代始まる●笑いの慰問団「わらわし隊」●岡田嘉子・杉本良吉、ソ連へ越境

▶第51号1939[昭和14年]2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発

▶第52号1940[昭和15年]2月24日発売
「紀元は二千六百年!」●日独伊三国同盟締結●強まる統制、"配給"に"回覧板"●"海の狼"Uボート

▶第53号1981[昭和56年]3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●中国残留孤児の苦難●『窓ぎわのトットちゃん』刊行●フルムーンと熟年

▶第54号1982[昭和57年]3月10日発売
ホテル・ニュージャパン火災●ベルシャ秘宝展と三越●日米コンピュータ戦争●ブレジネフ死去



# ミニ事典

## 1955年のキーワード

### 主婦第二職業論
評論家の石垣綾子がこの年の「婦人公論」二月号で訴えた主張。女は主婦の座に甘えることなく、職場という第一の職業と、主婦という第二の職業の両立をめざさなければならないとした。これに対し、主婦の役割は外で働く男以上に重要、主婦がすべて働く必要はないとする坂西志保らの反論があり、大反響を呼んだ。

▲婦人は職業を持つべきだと説いた石垣綾子(51)。

▲家事は重要な役割と反論した坂西志保(58)。

### 日本生産性本部
二月一四日、生産性向上運動を全国民的に展開するため、政府・経営者・労働者が共同して設立した財団法人。前年三月に経団連、日経連、経済同友会などで組織された日本生産性増強委員会を引き継ぎ、米国が対ソ戦略上から積極的援助をはかることになった。総同盟は参加したが、総評は労働強化や首切りになるとして反対し続けた。

### アジア・アフリカ会議
略称、AA会議。植民地主義と東西ブロックに対抗するアジア・アフリカ諸国の国際会議。インドネシアのバンドンで四月一八～二四日に第一回会議が開催され、二九ヵ国から、インドネシア大統領スカルノ、中国首相・周恩来、エジプト大統領ナセルら代表が参加。日本からは高碕達之助が出席した。大国の集団防衛にくみしないなど「平和一〇原則(バンドン一〇原則)」が採決された。

### 京大学術探検隊
カラコルム・ヒンズークシ両山系一帯を総合的に調査するため、五月一四日に日本を出発した京大教授・木原均を総隊長とする岩村忍、今西錦司、梅棹忠夫、中尾佐助ら総勢一六人の学術探検隊。日本の学術探検隊として、初めて国費が支給された。一行はパン小麦の原種の発見、ジンギスカンの末裔モゴール族との邂逅、大氷河の踏破などを達成、後の海外学術探検隊の先駆けとなった。

### 『売春白書』
労働省婦人少年局が、集娼地域(組織売春)の実態調査をまとめた報告書。七月八日発表。それによると全国の集娼地数は一九二一ヵ所で戦前に比べ六五〇ヵ所増加、売春婦は約五〇万人にもおよぶ。多くが戦後の生活苦からこの道を選び、一人が一晩にとる客の数は平均二～四人、収入の七割は雇主に搾取されていた。

### 経済企画庁
経済政策を総合的に企画・調整する総理府の外局。七月二〇日発足。経済審議庁が発展改組。長官は高碕達之助。三一年度から三五年度までを対象に経済自立五ヵ年計画を作成、引き続き新長期経済計画などを策定、昭和三一年の神武景気から始まる経済発展の推進役を担った。

### 日本住宅公団
深刻な住宅難を解消し、住宅復興政策を推進するために設立された政府出資の組織。資本金六〇億円。初代総裁・加納久朗。民間資金を導入して宅地造成を行い、良質の住宅・宅地供給を実施した。建設省によると、昭和二九年一〇月末での住宅の不足は、約二八四万二〇〇〇戸にも達しており、住宅供給は急務だった。昭和五六年、宅地開発公団と統合、住宅・都市整備公団となった。現在はその存続が議論されている。

### 原水爆禁止世界大会
毎年八月に開かれる原水爆禁止の集会。東京・杉並で始まった原爆反対の署名運動が実を結び、昭和三〇年八月六日、広島で第一回大会が開催された。参加者五〇〇〇人の中には一四ヵ国代表のほか湯川秀樹、鳩山首相、主要都市の市長など広範な人々の顔が見られた。しかし、三五年には自民・民社党が不参加、四〇年には社会・共産党系に分裂した。

共同通信社
▲広島市公会堂で午前10時から開かれ、「原水爆反対」の大会宣言を採択した。

### 「うれうべき教科書の問題」
保守党の日本民主党が、日教組関係の学者が執筆した社会科教科書について批判した小冊子。八月一三日に第一集、以後二冊刊行された。小学校六年生用の『あかるい社会』で「ひみこ」が中国に貢物をしたり、平城京が長安をまねたとする記述は、「中国礼賛・祖国喪失」史観と非難した。日教組や学術会議が「戦前に戻るもの」などと反論したが、教科書検定が強化されるなどの影響を与えた。

### 新生活運動
虚礼廃止などの普及により、国民の生活様式を合理化しようとする運動。生活水準が回復する中で、鳩山内閣が打ち出し、国民生活への浸透をはかった。九月三〇日、新生活運動協会が発足。「大政翼賛会の復活だ」との反論もあったが、農村部で運動が広がり、冠婚葬祭費用の高騰を抑制するなど、一定の効果をあげた。

「国際写真情報」/国際フォト
▲秋田県昭和町の青年会が、結婚式簡素化をめざし、会費制の模擬結婚式を開いた。

### 保守合同
保守勢力の日本民主党と自由党の合同。一一月一五日、自由民主党を結成。吉田内閣の与党だった自由党は、造船疑獄が発覚すると前年一一月には崩壊状態になった。これに対し、反吉田派の鳩山一郎らは日本民主党を結成したが、過半数に達しなかった。一〇月に社会党が統一すると財界は保守安定政権の成立を強く要請したため、「五五年体制」の開始となる単一保守政党が誕生した。

### 原子力基本法
原子力の研究・開発・利用を推進するための法律。一二月一九日公布。翌年一月、原子力委員会が設置され、日本の原子力開発体制が本格的にスタートした。前年一〇月、日本学術会議は「民主・自主・公開」の原則を定めて政府に申し入れており、原子力基本法はその開発を平和利用に限定することがうたわれた。

## 週刊YEAR BOOK/日録20世紀1955

CONTENTS




●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邊裕…
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石ノ森章太郎 大堀一彦 影山智洋 影山光洋 デニス・ストック 但馬一憲 中俣トシヨ 中俣正義 元安伸 ナターシャ・スタルヒン 朝日新聞社 あびこ写真店 沖縄タイムス 共同通信社 国際フォト G・I・P・Tokyo SHOOTING STAR 中国新聞社 TBS 日刊スポーツ PPS ベースボール・マガジン社 Popperfoto 毎日新聞社 マグナム・フォト ユニフォト・プレス 読売新聞社 連合通信社 キングレコード ソニー テイチク 東芝 東宝 日活 松下電器産業 ららぽーと 喜多流日黒能楽堂 THE KOBAL COLLECTION 才能教育研究所 通信総合博物館 東京国立近代美術館 日本共産党

定価590円

雑誌 23702-12/9
Ⓛ-2001/1/1

T1123702120568



印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社